

## 第5次

# 武蔵野市民 地域福祉活動計画 (2025~2030)



## 武蔵野市で暮らすすべての人に読んでほしい計画です

この武蔵野市で、誰もがその人らしくささえあいながら暮らしていくためには、武蔵野市で暮らす一人ひとりの協力が必要です。

手に取ってくださったあなたもその一人！

この計画を読んであなたがこの街でできることから始めませんか？



# 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画

はじめに	1
この計画を手にとってくださったみなさまへ	3
<b>I 地域福祉活動計画策定までの流れ</b>	<b>4</b>
1 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画の策定イメージ	5
2 計画の期間	5
3 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会	5
<b>II 第5次活動計画につながる取組と課題</b>	<b>6</b>
1 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の取組状況	7
2 地域懇談会から見えてくる課題	12
<b>III 第5次活動計画の概要</b>	<b>16</b>
1 基本理念	17
2 基本目標	17
3 施策の体系図	18
4 実施主体の設定	18
5 特に推し進めたいアクション	19
6 計画の推進・振り返り	19
<b>IV 全地域で6年間に取り組むこと</b>	<b>20</b>
1 基本目標とその達成に向けた取組	21
<b>V 身近な地域で6年間に取り組むこと（地域社協別地域福祉活動計画）</b>	<b>32</b>
1 地域社協別地域福祉活動計画の策定と振り返り	33
2 地域社協別地域福祉活動計画	34
<b>資料集</b>	
1 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会 委員名簿	61
2 策定委員会 開催状況	62
3 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画中間まとめに対するパブリックコメント概要報告	63
4 用語説明	74

# はじめに



社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会  
会長 **千種 豊**

多くの市民の皆様方と関係機関・団体の方々に多大なるご協力を賜り、第5次武蔵野市民地域福祉活動計画ができました。

策定委員会では、今般の社会情勢の早い変化を踏まえ、今はまだ地域のつながりやサービス等による支援を希望しない人も孤立しない地域づくりを目指して、つながりたいときにつながることができるための情報発信や地域支援の大切さが話されました。

このことを踏まえて、武蔵野市民社会福祉協議会（市民社協）も令和7（2025）年度には市民社協発展・強化計画を策定し、具体的な取組を検討してまいります。

今後とも市民の皆様には地域福祉の推進にご協力のほどよろしくお願いいたします。

結びに、多くの貴重なご意見をお寄せいただきました皆様に感謝し、厚く御礼を申し上げます。



第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 **熊田 博喜**

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画が完成しました。

前計画は2019(平成31)年度から2024(令和6)年度の6年間の計画でしたが、この時期は地域、そして社会では大変辛く苦しい経験をしました。新型コロナウイルスの感染拡大による対面活動の制限とそれによってもたらされた生活困窮や孤独といった様々な生活課題です。対面活動の制限は、従来の地域活動を著しく制限しただけでなく、特に居場所のよ

うな3密を伴う取り組みは大きなダメージを受けました。また感染拡大は社会的孤立といった課題や仕事を失った方々の生活困窮という問題を露呈しました。現在、生活はコロナ以前の状況に戻りつつあります。とはいえ見えた課題とどのように向き合っていくのかが重要なテーマとなってきています。一方で新型コロナウイルスの感染拡大は新しいコミュニケーションのあり方を地域や社会に浸透させました。具体的には双方向のオンラインツールの浸透ですが、これらのツールは時間・空間を超えて新しいコミュニケーションのあり方を生み出し、そのコミュニケーションは新しいつながりも生み出してきています。

今期の計画は上述のような状況や問題意識を踏まえて策定を行いました。計画の骨子はサンプルです。「地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！」と「つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！」です。「情報」と「つながり」、これらはコロナ禍を経て、誰もが自分らしく暮らすことができる武蔵野市を住民視点から築いていくために最も必要なことです。地域福祉の推進と考えた場合、「情報」には地域の情報と福祉の情報が 있습니다。これらの情報を意識的に分けて必要な人に届くようにすることが大切であると考え、具体的な方法も含めて計画に位置づけました。また「つながり」については、地域の「つながり」を「困った時に助け合える」「地域での自然な」そして「地域で一緒に活動できる」という3つの「つながり」に整理して、内容に応じて、「つながる」方法とその推進について検討を行いました。併せて「すべての市民」「活動に参加している人」「市民社協」「公共・専門機関」という立場から目標実現のために「できること」を考えています。

そして本計画は、「市民視点」を大切に策定しました。参画した委員メンバーの多くは、武蔵野市に在住し、武蔵野市での実践に関わっています。委員の皆様からは毎回真摯な意見や疑問が呈され、それを事務局は全て受け止めて計画に反映しました。毎回発言を頂くことは勿論ですが、何度も資料や計画案に目を通して意見を頂きました。また本計画書には、地域社協別地域福祉活動計画も策定されています。その意味で本計画は委員や地域社協という一貫した「市民視点」で6年後の武蔵野市の地域のあり方を描いたものとなります。

本計画の策定にあたって、3圏域で実施した地域懇談会に参加頂いた市民の皆様、策定委員会の皆様、地域社協の皆様、そして事務局の皆様に心より御礼申し上げます。そして、この計画の実現に向けて武蔵野市の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

# この計画を手にとってくださったみなさまへ

地域福祉活動計画は、社会福祉協議会が呼びかけ、住民や地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を経営する者が相互に協力し、「地域福祉の推進」を目的として策定する民間の計画です。策定を通じて地域課題\*の明確化とその解決のための協議を行い、解決に向けた具体的な行動と関係機関・団体の役割分担が盛り込まれます。

## 計画に参加いただきたいのは「すべての市民」です

この計画を推進するためには多くの市民の皆様のご協力が必要です。すでに何らかの地域福祉活動\*をしている人や団体や、本計画の呼びかけを担う武蔵野市民社会福祉協議会（以下「市民社協」）\*、公共や専門機関はもちろんのこと、まだ地域福祉活動にかかわったことがない人を含む「すべての市民」に、できる形で参加いただくことを期待し、具体的なアクションをまとめています。

そして、本計画が想定する「すべての市民」は、年齢・世代を問わず、障がいの有無や国籍に関係なく、このまちで暮らし、働くすべての人々です。計画の策定にあたり、多様な視点を取り入れるため、本計画の策定に携わった第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（以下「策定委員会」）には、武蔵野市内でさまざまな分野の地域福祉活動に携わる人にかかわっていただきました。

## 「全地域で取り組むこと」と「身近な地域で取り組むこと」をまとめました

本計画では、基本理念「みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして（P12）」を達成するために、以下の2つの取組を並行して進めていきます。

### 全地域で取り組むこと

#### 全地域の計画 P20～P30

身近な地域の取組だけでは解決できない全地域で共通する課題や身近な地域の活動を包括的に支援するための取組をまとめた計画

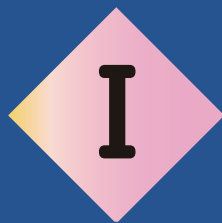


### 身近な地域で取り組むこと

#### 地域別（13地域）の計画 P32～P60

身近な地域で支え合い、いざというときに助け合えるような関係づくりを進める住民組織「地域福祉活動推進協議会（地域社協）\*」のエリアごとに現状と課題、取り組むべき活動をまとめた地域別計画

全地域の計画と地域別の計画が車の両輪となり、双方の取組がお互いに充実し合うことで、武蔵野市の地域福祉を推進していきます。



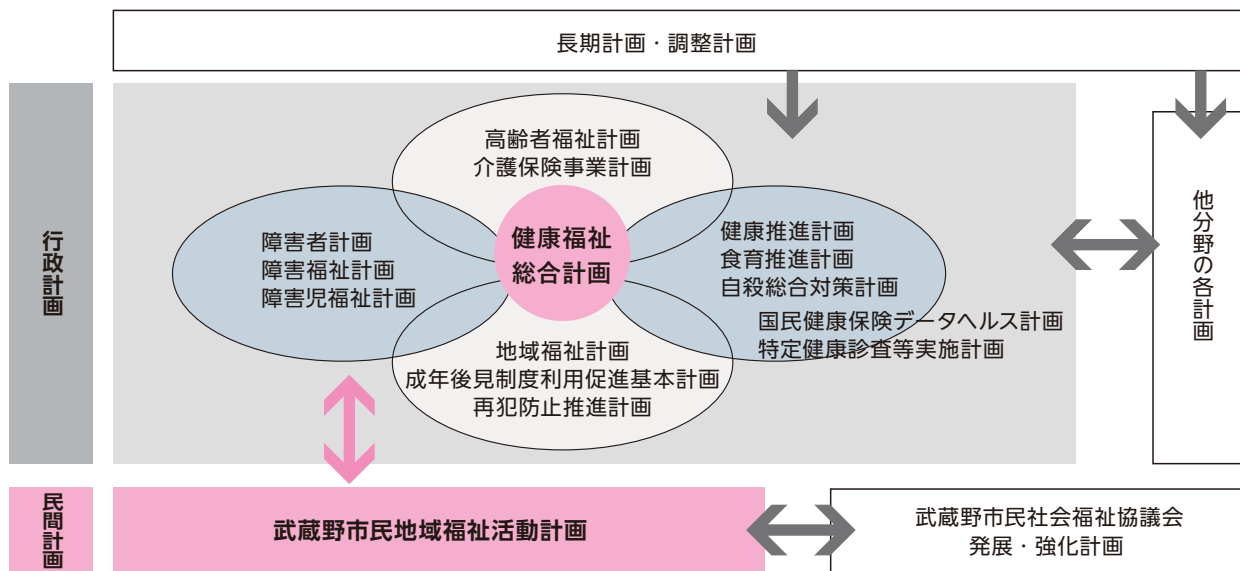
# 地域福祉活動計画 策定までの流れ



## 1 第5次地域福祉活動計画の策定イメージ

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第5次活動計画」）は令和6（2024）年3月に策定された「武蔵野市第4期健康福祉総合計画\*・第6期地域福祉計画」と相互に連携しながら武蔵野市における総合的な地域福祉の推進を目指します。

### 関連計画のイメージ



市民社協では、本計画の策定を受け、市民社協の法人としての使命や理念、目標を明確にし、その実現に向けた事業や組織等における具体的な取組をまとめた「市民社協発展・強化計画\*」を令和7（2025）年度に策定する予定です。

## 2 計画の期間

第5次活動計画の期間は、令和7（2025）年度から令和12（2030）年度までの6年間とします。

年度	平成31 [2019]	令和2 [2020]	令和3 [2021]	令和4 [2022]	令和5 [2023]	令和6 [2024]	令和7 [2025]	令和8 [2026]	令和9 [2027]	令和10 [2028]	令和11 [2029]	令和12 [2030]	
市	武蔵野市第3期健康福祉総合計画 (第5期地域福祉計画等)					武蔵野市第4期健康福祉総合計画 (第6期地域福祉計画等)							
市民 ・ 社協	第4次武蔵野市民地域福祉活動計画						策定	第5次武蔵野市民地域福祉活動計画					
	市民社協発展・強化計画							第2次市民社協発展・強化計画（仮称）					

## 3 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会

本計画の策定に向けて、16名の第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会委員（以下「策定委員」）にご協力いただき、「2 策定委員会 開催状況（P62）」に記載のスケジュールで進めてきました。

# Ⅱ

## 第5次

# 活動計画につながる 取組と課題



## 1 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の取組状況

### (1) 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画を振り返って

平成31(2019)年度から6年間で取り組んだ第4次武蔵野市民地域福祉活動計画(以下「第4次活動計画」)は、「みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして」の基本理念のもと、「地域をささえる人づくり」「人がつながる地域づくり」「たすけあいのしくみづくり」の3つの基本目標と、地域課題へのアプローチ方法として4項目の重点的な取組(①居場所\*づくりの展開 ②さまざまな相談の場と機能の充実 ③地域社協の発展 ④地域福祉コーディネーター\*(仮称)の役割や機能の整理)を設定して、武蔵野市の地域課題と向き合い、地域づくりを進める予定でした。

しかしながら、2020年(令和2年)1月に国内で新型コロナウイルスの感染が初めて確認され、計画期間(平成31(2019)年度~令和6(2024)年度)の大部分が感染防止の観点から不要不急の外出を控える事態となり、直接会って話すことや仲間との活動ができない状況となりました。加えて、感染症による生活困窮や孤立\*等の課題も地域で浮き彫りとなり、模索をしながら活動することになりました。そのような状況下であっても市民の創意工夫によって新たな居場所等の地域実践が生み出され、市民社協もそれを支えてきました。

第4次活動計画の総括は、「第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会」のご協力のもと、「第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 6年間のふりかえり報告書(以下「6年間のふりかえり報告書」)」にまとめていますので、詳細は6年間のふりかえり報告書をご参照ください。

「第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 6年間のふりかえり報告書」は、  
右の二次元コード\*からご覧いただけます。



### (2) 各目標・取組の達成に向けて取り組んできたことと課題

#### 基本目標1 地域をささえる人づくり

この基本目標を達成するための取組として「地域の福祉情報・ボランティア情報をわかりやすく発信する」「より多くの人々が地域の福祉に関心をもつ機会を増やす」「地域活動の担い手を増やす」の3つを定めました。

#### 〔取り組んできたこと・今後の課題〕

●全部で13ある地域社協のうち、11の地域社協でX(旧 Twitter、以下「X」)アカウントを開設し、現在も地域活動の情報発信に取り組んでいます。市民社協でも、ホームページのスマートフォン対応や、Facebook、X、Instagramによる発信等デジタル媒体での広報に取り組んできました。コロナ禍もあり、SNS\*等を活用した取組が急速に進んだ一方で、「SNS等のデジタル媒体に慣れていない人や苦手な人」へ情報をどう届けるかの課題もあり、今後は伝えたい情報によって媒体を使い分ける等、より多くの媒体による情報発信を行う必要があります。

- 多くの地域団体で、情報を受け取る人にわかりやすい表現を意識して広報紙等の作成に取り組みました。また複数の地域社協がインターネットによる印刷発注を活用して広報紙をカラー化したり、プロボノ\*を活用してデザインを見直す等、活動に関わっていない人にもわかりやすい表現を目指して見直しに取り組んでいます。情報を見た人からの問い合わせもある一方で、「武蔵野市地域福祉に関するアンケート調査報告書(令和5(2023)年3月)」では、「地域活動情報・ボランティア活動情報のわかりやすさ」「WEB媒体による地域活動情報・ボランティア情報の提供」等、いくつかの項目において、満足度50%を達成度の指標としていましたが、いずれも50%には至りませんでした。
- 地域社協がそれぞれのエリア内で一緒に活動する人を探す取組の一つとして検討してきた「転入者へのPR」を検討する際に、「役員を押し付けられそう」等の理由から地域社協に参加しづらいという声があることを踏まえ、「すぐに役員に誘わない」「単発的な手伝いも可」と強調して誘うことに取り組んだり、役員体制を見直したりしました。
- 近年の傾向では、地域活動に参加する動機として「自分にとって楽しいかどうか」を優先する人もいます。受け入れる側の取組として、「行ってみたら楽しかった」と感じてもらえるような募集の仕方も担い手を増やすうえで考えるべき課題です。

## 基本目標2 人がつながる地域づくり

この基本目標を達成するための取組として「顔が見える関係をつくる」「人と人とがつながる場をつくる」「人や団体同士をつなげる」の3つを定めました。

### 〔取り組んできたこと・今後の課題〕

- 地域社協では、「丁目活動\*」「ご近所のつどい」のような範囲の狭いエリアを対象とした活動や、防災・防犯のような世代を問わず関心を持っていただけそうなテーマについて、各地域で工夫して実施しています。今後は、顔の見える関係を望まない人と地域との関わりをどのようにつくっていくかの検討も必要です。
- 市民社協では、市内にある障がい者団体や双子等を育てる家族の会、転勤族の妻の会、日本語を母語としない子育て家庭を支援する団体等、既存の団体の活動を把握し、必要な人からの相談があれば、紹介できるように取り組んでいます。今後は、当事者の声を取組につなげるための調査等についても検討する必要があります。
- 市民社協では、令和5(2023)年度より市の様々な相談支援機関が集まる総合支援調整会議に参加し、各機関と共に包括的な相談支援体制づくりを進めています。8050問題\*やヤングケアラー\*問題に象徴される複合的な課題への対応には、支援機関に加え、地域団体・関係機関同士の連携も必要となるため、今後も体制づくりの推進が必要です。

## 基本目標3 たすけあいのしくみづくり

この基本目標を達成するための取組として「地域での孤立を防ぐ」「地域の福祉活動・ボランティア活動を支える」の2つを定めました。

**〔取り組んできたこと・今後の課題〕**

- 地域社協をはじめとする地域活動団体は、サロン\*活動、丁目活動、居場所づくり等の日頃から顔見知りを増やす取組を実施しており、参加者の様子が普段と違っていたり、支援の必要がある場合には関係機関に連絡しています。
- 市民社協では、家の近くやよく買い物に行く場所の近くなど、市民が気軽に行きやすい場所で相談を受けるため、令和5(2023)年度より市内全域で出張相談会「ちょこっと出先で生活相談」を開始しました。会場は、市内の事業所や団地の集会所等の協力により、一角をお借りして開催しています。また、実施にあたって、各地域社協による地域内での支え合いにより、エリア内で支援が必要な人がいれば、つないでもらう等の協力をいただいています。
- ボランティアセンター武蔵野では、生活のちょっとした困りごとがあっても家族や友人等に頼ることが難しい人をボランティアが支援する「ねこの手ボランティア」\*事業を行っています。

**重点的な取組1 居場所づくりの展開**

この取組を行うにあたり、年齢や対象を限定せず、誰もが参加できる住民同士の交流の場を増やすことを目標としました。

**〔取り組んできたこと・今後の課題〕**

- 市民社協では世代や対象を限定せず近所の人が集うことを目的とした「身近な地域の居場所づくり助成・支援事業」を推進してきました。平成28年の事業開始から、令和6(2024)年度までで18団体（休止・助成事業からの卒業をした団体含む）の立ち上げ支援を行いました。
- 居場所の立ち上げ支援にあたり、既存の建物の有効活用や運営の担い手が増えることを目指して、居場所づくり学習会・交流会の実施や、立ち上げ事例をまとめた冊子を作成しました。今後の展開として、振り返りの中で、「誰もが集まれるものばかりではなく、対象者や内容に特徴のある居場所があってもよい」という意見もあり、多様なニーズ\*にどう対応していくかが課題です。

**重点的な取組2 さまざまな相談の場と機能の充実**

この取組を行うにあたり、相談機関に電話や来所で問い合わせをすることにハードルの高さを感じる人や、どこに相談すべきかわからない人が、少し気になることや知りたいことを話したり、聞いたりできる場や機能の拡充を進めてきました。

**〔取り組んできたこと・今後の課題〕**

- 武蔵野市では令和3(2021)年度に、福祉に関する相談先や解決方法が分からない困りごとや生活の不安等への対応をするため、市役所内に福祉総合相談窓口が開設されました。

また、市民社協では、福祉サービス等の利用が必要であるにもかかわらず、地域でのつながり等がないために支援につながっていない人を地域の住民組織を中心とした支え合いのしくみで気づき、市の包括的な相談支援体制につなげ支援する等困りごとへの支援体制の強化に取り組んできました。令和5年度からは、困っている人の生活に近い場所で相談を受ける「ちょこっと出先で生活相談」を開始する等、さまざまな相談の場づくりの取組を行っています。一方で、相談機関に話をすることにそもそもハードルを感じる人もいるため、地域活動を行っている市民が相談機関につなぐことも大切です。今後は、相談者と相談機関とのつなぎ役となる市民への情報提供のしくみも整えていく必要があります。

- 相談という看板を掲げている場では話しづらい人でも、市民のつどいの場だと気軽に参加できて相談につながる可能性もあるため、地域社協が開催するサロンやイベント、会合等にも市民社協の地域担当職員が出向き、相談を受け止めていく必要があります。

### 重点的な取組3 地域社協の発展

この取組を行うにあたり、市民の誰もが地域社協を知っていて、参加するまちを目指して、9つの「6年後の目指す姿」を示して、取り組んできました。

#### 〔取り組んできたこと・今後の課題〕

- 「転入者が地域社協を知る機会」として、いくつかの地域では、地域団体の広報紙等を転入者向けにまとめたセットを作成して、対象となり得る人に配布しました。今後は、転入者が参加しやすい企画を地域社協・市民社協の双方で検討するとともに、市役所窓口等、転入者に情報が伝わりやすい場での情報提供を引き続き検討する必要があります。
- 「地域社協の活動の魅力の発信」については、11の地域社協がXアカウントを開設し、SNSでの情報発信に取り組み、12地域が広報紙（紙媒体）を継続して発行しています。今後もSNSでの情報発信を継続する一方で、地域内の掲示板の設置場所の拡大を目指す等、デジタル媒体を受け取ることができる人・慣れていない人や苦手な人の双方の視点で、効果的な情報発信を行います。
- 地域社協の中には、20～40代の活動者の増加を目指して、広報紙やパンフレットに具体的な参加方法を記載したり、役員の体験期間を設定した例もあります。今後は、短時間の活動や負担感の少ない役割から参加できるしくみづくりを検討していきます。
- 市民社協が実施する「ちょこっと出先で生活相談」の広報周知や相談を必要とする人への情報提供等に協力しています。一方で、相談機関にいきなり話をすることにハードルを感じる人もおり、自然と人を巻き込むしくみや、サービスの知識がある“ハブ（つなぎ役）となる市民”が必要という意見もあります。
- いくつかの地域社協では、「地域の他団体の事業、イベントとの統合、再編等を通じて、負担の軽減、人材の有効活用ができています」姿を目指して、地域行事の統合や再編について、コミュニティ協議会\*や町会等と話し合いを行った結果、共催化や複数の団体が参加する実行委員会形式でイベントを行う等活動の整理が進んでいます。特にコミュニティ協

議会と地域社協は、共通する地域の課題に取り組んでいることも多いため、連携について検討を進める必要があります。

- 市民社協では、武蔵野市が行う災害時要援護者対策事業の協力団体として、令和5(2023)年度に市との意見交換会を実施しました。また、「無事ですカード\*効果検証ワーキング」を開催し、他市区の安否確認のしくみを視察し、参加した地域の課題解決に向けて話し合いを行いました。今後も持続可能な制度としていくための課題について、市との話し合いを継続していきます。
- 市民社協では、「地域担当職員によるきめ細やかな支援が行われている」姿を目指して、コロナ禍でも地域社協の運営支援を継続し、市民が会場に集まらなくても会議に参加できる方法として、地域社協がオンライン開催を取り入れられるような講習会を開催したり、各地域社協のメンバーが集まる地域社協代表者連絡会等でオンライン開催を取り入れました。
- 市民社協では、「地域社協の事務の簡素化」のため、会計書類等の様式の見直しや簡素化を行いました。今後は地域社協に限らず、地域活動に参加する上でのハードルとなるような負担感の軽減を目指します。

#### 重点的な取組4 地域福祉コーディネーター（仮称）の役割や機能の整理

この取組を行うにあたり、武蔵野市における地域共生社会の実現に向けて、市民社協が担うべき役割を検討しました。

##### 〔取り組んできたこと・今後の課題〕

- 市民社協では、地域福祉コーディネーターの機能設置に向けた取組として、11か所の市内関係機関へのヒアリング調査を行いました。また、地域福祉コーディネーター立ち上げ検討委員会を開催しました。
- 検討委員会での協議の結果、既存の「地域担当職員」の機能を拡充し、以下の4つの地域福祉コーディネーターの機能を地域担当職員が担うこととしました。
  - ①サービスや支援につなぐ
  - ②孤立している人を地域住民につなぐ
  - ③地域の課題を共に考える場をつくる
  - ④解決のしくみをつくる
- 4つの機能の拡充を目指し、令和5(2023)年度より市内各所で市民の困りごとの相談を受ける「ちょこっと出先で生活相談」を開始しました。
- 今後は、武蔵野市における地域共生社会の実現に向けて、上の4つの役割のうち、「②孤立している人を地域住民につなぐ」や「課題に対応した新しい制度・しくみづくりの場」等の取組を強化していきます。

## 2 地域懇談会から見えてくる課題

### (1) 地域懇談会の実施方法

第5次活動計画の策定にあたり、地域課題やこれからの取組についてのご意見をいただくため、地域懇談会を市内の西部・中部・東部の3圏域でそれぞれ開催しました。当日はそれぞれの圏域の地域社協のご協力のもと、延べ76名にご参加いただきました。このほか、地域社協のエリアごとで、地域課題やこれから取り組む目標を検討するべく、独自に懇談会が開催されました。

圏域	地域名	日時	場所	参加者数
西部	桜野・境南 境・関前	令和6(2024)年 8月4日(日)	武蔵野プレイス	19名
東部	吉西・御殿山 東部・南町	8月18日(日)	武蔵野商工会館	33名
中部	千川地域・大野田 西久保・中央 四小地区	8月24日(土)	武蔵野市民文化会館	24名

### (2) 地域懇談会の実施内容

#### ①地域課題の抽出の共有

- ・第4次武蔵野市民地域福祉活動計画から残された課題は？
- ・私たちのまちや暮らしの今の生活課題や問題は？
- ・今後6年間で私たちが取り組むべきことは？

#### ②地域課題を優先度でランキング化

#### ③地域課題ごとに具体的な取組案を出す

### (3) 明らかになった課題（複数の地域から共通して出された課題）

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定のための地域懇談会

6年後の  地域を話し合う [2025>>>2030]

令和7 令和12

01 課題の抽出・共有

02 課題を優先度でランキング化

03 具体的な取組案を出す

Share! 全体共有 出たステキなアイデアをメモしよう!

地域懇談会で実際に使用したワークシート（これに付箋をつけて意見を出し合いました。）

地域懇談会は、これまでの地域活動を振り返り、新しい地域課題に気づく等、有意義な機会となりました。地域社協のエリアごとに現在の地域課題や今後の6年間で取り組むべきことについて話し合う中で、「地域によって特徴のある課題」と「複数の地域で共通する課題」があることがわかりました。以下の「複数の地域で共通する課題」は、策定委員会でも全市的な課題として検討し、後述の第5次活動計画の取組の根拠となる課題としても取り扱っています。

### 近隣とのつながり

- 隣近所とのつき合いが希薄。
- 若い人や新しい転入者とながれていない。
- マンション住まいのため、地域との交流がない。また、地域側からもマンション居住者へのアプローチができず、悩んでいる。
- 私立学校に通う子育て世帯の地域活動への参加方法
- 世代が変わったことで地域活動への考え方やかかわり方も変化しており、地域活動へのかかわり方を改めたい。
- 地域とのかかわり合いをもちたい人がどのような方法があるかわからない。
- 50～60代の参加が少ない。
- 仕事を持ちながらどうかかわれるか？
- 役員の成り手がない。中心で活動してくれる人材を育てたい。
- さまざまな地域団体のどの会議に出席しても同じ顔ぶれになっている。
- 若い人は多いが、担い手として参加してくれる人がいない。

### 情報提供

- 地域社協はなにをやっているのかわかりにくい。子育て世代にあまり知られていない。
- 活動に関わる人が少ないが、どう募集したらよいか。

### 地域の高齢者に関して

- 独居高齢者が多く、ひとりで生活することが難しい人が増えている。電話に出ないことや個人情報の壁から連絡先がわからないこと等による高齢者への伝達不足をどうするか。
- 高齢者で働ける人へのボランティアや仕事の紹介ができるとうい。
- 一人暮らしの安否確認と見守り。
- 高齢者の外出が少ない。
- 老老介護が増加している。
- インターネットを利用できない高齢者が多い。
- SNSでの広報が活発になる一方で、SNSが苦手なシニア層は紙媒体の広報（チラシ、掲示板等）がないと情報が手に入らず、地域活動に参加できない。
- 高齢者が集まる場所が徒歩圏内にない（または遠い）。

### 災害時に助け合えるしくみづくり

- 災害時に近所同士が助け合えるしくみをつくりたい。
- 緊急時（災害等）のときにかかわることができる関係性づくりが必要。
- 災害時要援護者対策事業のさらなる周知が必要。

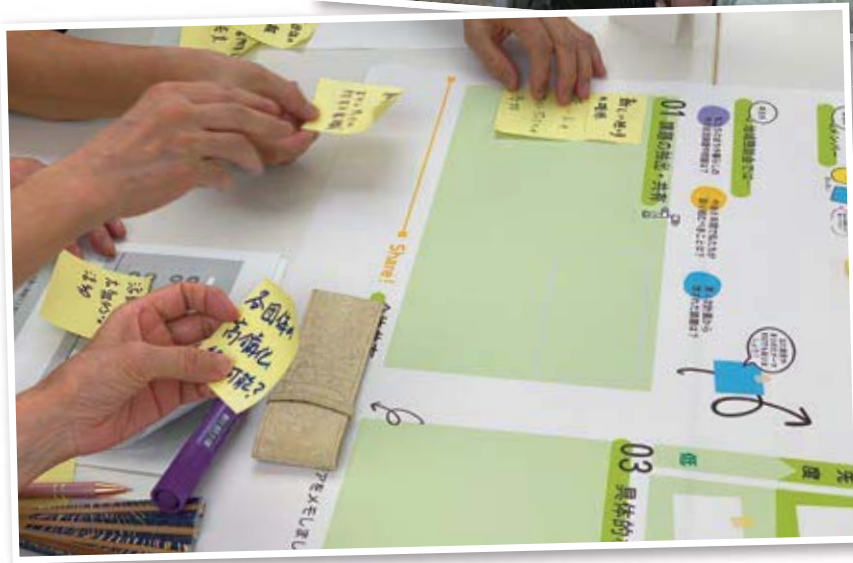
### 同じ地域にある他団体との連携

- 他団体とあまり連携できていない。
- コミュニティセンター（コミセン）を拠点とした他機関・他団体の連携が必要。
- 子どもから高齢者まで集まれる場所がほしいので、コミセンの活用を促進したい。

地域によって特徴のある課題や地域懇談会の実施報告の詳細は、  
右の二次元コード\*から「第3回策定委員会資料」でご覧いただけます。



# 〈地域懇談会の様子〉



# Ⅲ

## 第5次 活動計画の概要

これまでの課題を踏まえて  
令和7(2025)年度から取り組む新しい計画を策定しました！



## 1 基本理念

### みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして

本計画の基本理念は、「第2次武蔵野市地域福祉活動計画（平成16(2004)年3月）」から継承されているものです。市民一人ひとりが主体的に福祉のまちづくりに取り組むことで、ささえあいのまちづくりを実現させていくという想いが込められています。

## 2 基本目標

### 基本目標 1

地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！

### 基本目標 2

つながりたい時につながることができ、孤立\*する人がいない武蔵野市にしよう！

これまでの活動計画の基本目標とは大きく構成を変え、上記の2つを基本目標として掲げることとしました。第4次活動計画まで掲げてきた「地域をささえる人づくり」「人がつながる地域づくり」「たすけあいのしくみづくり」の視点を大切にしつつも、第5次活動計画で掲げる目標は「情報」と「つながり」の2つを大きなテーマとして整理しました。

1つ目の「地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！」は、年齢・世代や障がいの有無、国籍等にかかわらず、「地域の活動に参加したい」「福祉の専門機関に相談したい」という市民が自らアクションを起こすために必要な情報を届けることを目標に掲げました。

2つ目の「つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！」は、「地域と密接につながりたくない人もいる」という策定委員会での意見から、時代の変化に合わせて、つながりたい時につながることができる一方で、「つながりたくない状態」であっても、孤立しないしくみづくりを目標に掲げることとしました。

これらの基本目標の達成のため、5つの取組を掲げ、「すべての市民」「活動に参加している人」「市民社協」「公共・専門機関」の4つの視点から具体的なアクションに取り組むことで、基本理念の達成を目指します。

### 3 施策の体系図

#### 基本理念

みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして

#### 基本目標

##### 1 地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！

- (1-1) 地域で活動に参加しやすい情報発信を行う
- (1-2) 福祉の情報を受け取りやすくする

#### 基本目標

##### 2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！

- (2-1) 困った時に助け合えるしくみをつくる
- (2-2) 地域で自然につながる
- (2-3) 地域で一緒に活動できる仲間を増やす

### 4 実施主体の設定

本計画を推進するために取組を行うことが想定される実施主体を、以下のように分けて考えています。

すべての市民	まだ地域福祉活動にかかわったことがない人を含むすべての市民 (住民や仕事等により武蔵野市で暮らす人)
活動に参加している人	何らかの地域福祉活動に参加している人および団体 このなかで活動の目的により2つの団体に分け記載しています。 ■地域住民のつながりづくりを進める団体 (地域社協*やコミュニティ協議会*等) ■特定の課題に取り組んでいる団体(NPO*、ボランティア団体等)
市民社協	武蔵野市民社会福祉協議会* (ボランティアセンター武蔵野)
公共・専門機関	武蔵野市、在宅介護・地域包括支援センター、地域活動支援センター 等

地域福祉活動計画は「Ⅰ 地域福祉活動計画策定までの流れ」でも触れたとおり、住民や地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業(福祉サービス)を運営する者が相互に協力して策定する「地域福祉の推進」を目的とした民間の計画です。実施主体別の課題解決に向けたアクション(P22～)は、本計画の策定の過程で検討されたもので、「市民社協」のアクションは本計画を受けて策定される「市民社協・発展強化計画\*」により事業として推進されますが、「すべての市民」「活動に参加している人」「公共・専門機関」に記載されたアクションはそれぞれの主体に向けた期待として掲げています。これらのアクションを各主体が協力して進めていくことで、目標の達成を目指します。

### 5 特に推し進めたいアクション

本計画では、5つの取組のなかで、策定委員会が「特に推し進めていきたいアクション」を設定しました。特に推し進めたいアクションは、想定される実施主体が「すべての市民」または「活動に参加している人」から1～2つ選んでいます。「市民社協」のアクションについては、本計画を受けて策定する「武蔵野市民社会福祉協議会 発展・強化計画\*」にて具体的な方針を示す予定です。「公共・専門機関」に関しては、武蔵野市が策定している地域福祉計画等をもとに進められることを期待しています。

また、特に推し進めたいアクションには、アクションの達成の度合いを評価することを意識した到達目標も設定しています。計画策定後に振り返りを実施する際にはこのアクションを中心に振り返りを行っていきます。

### 6 計画の推進・振り返り

本計画の推進と振り返りは、市民などを中心に構成される第5次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会（以下、「推進委員会」）を設置し、年2回程度の開催頻度で進めていきます。振り返りの方法については、この推進委員会の中で検討を行います。

なお、地域社協別地域福祉活動計画（P32～）については、住民のみなさんが各地域の実情に応じて自主的に策定したものであることから、推進委員会による振り返りの対象とはせず、各地域において定期的に振り返りや見直しが行われることを想定しています。

**【参考】第5次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会による振り返りのイメージ**

年度	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)	令和13～ (2031)
第5次地域福祉活動 計画推進委員会	各アクションの振り返りを実施						
第6次地域福祉活動 計画策定委員会						報告 ↓ 策定	

# IV

## 全地域で6年間に 取り組むこと



## 1 基本目標とその達成に向けた取組

基本目標：1 地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！

取組：(1-1) 地域で活動に参加しやすい情報発信を行う

### 現 状

- 地域社協\*では、13地域のうち、11地域がX（旧 Twitter、以下「X」）を開設し、12地域で紙媒体を継続して発行しています。現在はSNS\*と紙媒体の両方、またはSNSのみ、紙媒体のみ等情報発信の仕方が地域によって異なります。
- いくつかの地域社協では、転入者向けセットを作成し、エリア内の新築等の家に配布しました。そのなかで地域社協のX等の紹介を行い、最新の情報にアクセスできるような情報提供を行っています。
- 一部の地域社協では、プロボノ\*等外部の専門的な知識を持つ人の力を借りて、これまで参加していない人にも興味関心を持ってもらえるようなわかりやすい表現を目指したデザインの見直し等に取り組んでいます。
- 市民社協では、広報紙「ふれあい」の発行に公募による広報委員が協力し、地域内の魅力的な取組を紹介する記事を掲載しています。情報を集めたり、活用することが難しい人への取組として、音訳ボランティア団体の協力によって、視覚障がい者に対して広報紙「ふれあい」の音訳CDを作成しています。

### 現状に関連して地域懇談会や策定委員会で出された意見

- ◆地域活動の情報がそれを必要とする市民に届いていない。
- ◆地域社協はなにをやっているのかわかりにくい。
- ◆SNSによる地域活動の情報発信が少ない（広報紙や掲示物など紙の情報媒体とSNSの両方での情報発信が行われていない）。
- ◆高齢者や障がい者、外国人等、情報を集めたり活用することが難しい人、内容をよく知らない人にも伝わりやすいように配慮をした発信が十分とはいえない。
- ◆受け取った側が「自分ごと」と考える情報になっていない。
- ◆地域団体の活動者のなかには、SNSで情報発信をする際の操作等に苦手意識を感じる人もおり、限られた発信者で運営している。もしくは、発信できる人がいない団体もある。

**実施主体別の課題解決に向けたアクション**

◀それぞれの実施主体の解説は P18 をご参照ください

すべての市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身近で行われている地域の活動の情報を、関心を持つ人に伝える。</li> </ul>
活動に参加している人	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SNS による情報発信を行い、情報発信の媒体を増やす。</li> <li>● SNS が不慣れな人や苦手な人に使い方を教える。</li> <li>●二次元コード*を活用した広報媒体の作成。</li> <li>●地域活動の魅力や活動に参加するメリットを発信する。</li> <li>●体験や見学等も取り入れることで、地域の活動に参加しやすくする。</li> </ul> <p><b>地域住民のつながりづくりを進める団体</b></p> <p><b>【特に推し進めたいアクション】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域のことを「自分ごと」と捉えることができるような広報を行う。</li> </ul> <p><b>到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇活動者の広報に関する勉強会や研究会を開催する。</li> <li>◇若者や定年退職後の人等、情報を届けたい相手に伝わる方法を検討する。</li> <li>◇情報を届けたい相手が気になるようなキャッチフレーズを皆で考え、発信する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市民が興味・関心を持てるような「楽しいこと」を発信していくことで、地域の活動に関心を持つきっかけをつくる。</li> <li>●地域内に掲示板の設置場所を増やす。</li> <li>●市民同士の LINE グループやポータルサイト*で地域活動の情報を発信できるしくみをつくる。</li> <li>●日本語を母語としない人々も地域の人たちとかわかることができるよう、各国の母語を日本語に通訳できる外国人住民にも地域活動への参加を呼びかける。</li> </ul> <p><b>特定の課題に取り組んでいる団体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活動の目的としている課題をより多くの市民が「自分ごと」と捉えられるような発信を行う。</li> </ul>
市民社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報を発信する媒体を増やす。</li> <li>● SNS が不慣れな人や苦手な人に使い方を学ぶことができる機会を提供する。</li> <li>●高齢者や障がい者、外国人等、情報を集めたり、活用することが難しい人や内容をよく知らない人にも情報が届くよう、やさしい日本語*の活用等わかりやすい情報発信を行う。</li> <li>●地域活動の魅力・メリットを発信することで市民の関心を高める。</li> <li>●地域団体が行う広報（SNS の活用支援、プロモーション動画作成等）を支援する。</li> <li>●職員が市内のさまざまな場所に出向き、地域活動・団体への参加に関する情報を広げる。</li> <li>●地域情報のワンストップ化*について検討する。</li> <li>●地域で実施されている活動について、情報を提供する機会や方法について検討する。</li> </ul> <p><b>地域福祉計画にも記載</b></p>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で実施されている活動について、情報を提供する機会や方法について検討する。</li> </ul> <p><b>地域福祉計画にも記載</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者や障がい者、外国人等、情報を集めたり、活用することが難しい人や内容をよく知らない人にも情報が届くよう、やさしい日本語の活用等わかりやすい情報を発信できるよう支援する。</li> <li>●転入者を含む市民に地域活動（団体）の情報を提供するしくみを検討する。</li> <li>●地域情報のワンストップ化について検討する。</li> </ul>

**IV**

**基本目標：1 地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！**

**取組：(1-2) 福祉の情報を受け取りやすくする**

## 現 状

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動においても、会議等は一時Zoom等を使ったオンライン開催で行われましたが、オンライン開催だと参加することができない人もいる等の理由から、現在多くの活動が対面形式、もしくは対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で実施されています。
- 災害ボランティアセンターの運営マニュアルや様式、案内表示の表現を見直す等、市民社協の一部の事業では、専門用語や難しい表現を極力避けて、やさしい日本語に変える取組を進めています。
- 市民社協では、「子ども・コミュニティ食堂及び子ども学習・生活支援合同ネットワーク連絡会」を開催し、それぞれの活動の利用者が、支援が必要なときに相談機関につながるように、子ども・コミュニティ食堂や学習支援を行う団体に対して市の福祉サービス等の情報提供を行っています。
- 一部の地域では、コミュニティ協議会\*が発行する広報紙と一緒に、地域社協が発行する広報紙を配布しています。
- コミュニティ協議会や地域社協では、お祭りのような多くの市民が集まるイベントを開催する際に、地域内にある団体や関係機関に対して参加を呼びかけ、それぞれの活動を参加者に紹介する場としています。

## 現状に関連して地域懇談会や策定委員会が出された意見

- ◆インターネットを利用できない高齢者が多い。
- ◆福祉は専門用語やカタカナ用語が多く、わかりにくい。
- ◆多くの人々が日常的に利用する駅や公共施設等で地域情報が発信されていない。
- ◆情報が多すぎて選択できない、必要な情報を見つけられない人がいる。
- ◆情報が届いても、自分ごとと捉えていない人もいる。
- ◆福祉的な活動だけでは、福祉に関心のある人にしか情報が届かない等、拡散力に限りがある。

## 実施主体別の課題解決に向けたアクション

◀それぞれの実施主体の解説は P18 をご参照ください

すべての市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の情報や福祉の情報を意識し、周りに高齢者や障がい者、外国人等、情報を集めたり、活用することが難しい人がいればわかりやすく伝える（届ける）。</li> </ul>
活動に参加している人	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p><b>【特に推し進めたいアクション】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者や障がい者、外国人等、情報を集めたり、活用することが難しい人や内容をよく知らない人にも情報が届くよう、やさしい日本語等を活用してわかりやすい情報発信を行う。</li> </ul> <p><b>到達目標</b> ◇文字（視覚的な情報）に頼らず、絵や音声等を用いた発信を行う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●SNSによる情報発信を行い、情報発信の媒体を増やす。</li> <li>●それぞれの活動の中で福祉サービスや支援窓口に関する情報を伝えて、困っている人が情報を入手しやすくする。</li> </ul>
市民社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者や障がい者、外国人等、情報を集めたり、活用することが難しい人にも情報が届くよう、やさしい日本語の活用等わかりやすい情報発信を行う。</li> <li>●情報を発信する媒体を増やす。</li> <li>●地域活動に参加している人が、福祉情報を必要としている住民に適切な福祉情報を伝えられるよう情報提供等の支援を行う。</li> <li>●職員が地域活動の現場や学校等に出向き、福祉の情報を伝える。</li> <li>●まちの様々な業種（事業所）と連携し、困っている人を発見した時に福祉の情報を伝えたり、市民社協につないでもらえるようなしくみをつくる。</li> </ul>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個人の知りたいことや困りごとに応じて生活に関する様々な情報が届くようなしくみ（アプリ*・映像等）を検討する。</li> <li>●福祉の様々な情報が設置されている場をつくり、市民が必要な時に手に取れるようなしくみを検討する。</li> </ul>

# IV

**基本目標：2 つながりたい時につなぐことができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！**

**取組：(2-1) 困った時に助け合えるしくみをつくる**

## 現 状

- 地域社協や自主防災組織では、防災に関するイベントや訓練を通じて住民のネットワークづくり等に取り組んでいますが、参加者が楽しめたり、自分ごととして関心を持てるような仕掛けがないため、なかなか一緒に取り組んでくれる人が増えないという悩みを抱えています。
- 地域社協をはじめとする地域活動団体は、サロン\*活動や丁目活動、居場所\*づくり等の地域内での顔見知りを増やす取組を実施しており、普段と様子が違っていたり、支援の必要がある場合には関係機関につないでいます。
- 市民社協では、令和4(2022)年度に地域福祉コーディネーター\*立ち上げ検討委員会を設置し、武蔵野市の現状にふさわしい地域福祉コーディネーターの機能について検討を行いました。その結果、市民社協の地域担当職員の機能を拡充することで、福祉サービス等の利用が必要であるにもかかわらず支援につながない人を地域住民と共に発見し、支援の窓口につないでいくこととしました。
- 市民社協では、出向いて支援するという従来の特性を活かし、困っている人の生活に近い場所で相談を受けられるよう令和5(2023)年度より、「ちょっと出先で生活相談」を実施しています。実施にあたっては、各地域社協にエリア内での広報や、福祉サービス等の利用や支援が必要な人を相談会につなぐ等の協力をいただいています。
- ボランティアセンター武蔵野では、生活のちょっとした困りごとがあっても家族や友人等に頼ることが難しい人をボランティアが支援する「ねこの手ボランティア」\*事業を行っています。

## 現状に関連して地域懇談会や策定委員会が出された意見

- ◆災害時等の緊急時に活かすための「平時からの関係性の構築」が不十分である。
- ◆近隣で助け合ったり、見守りをする「おせっかいをしてくれる人」が少なくなった。
- ◆近隣での助け合いに必要な個人情報を適切に取り扱うためのルールづくりが必要である。
- ◆困った時に相談ができる場所がいくつもあるが、どこに相談に行けばよいかわからない。
- ◆市民社協の地域担当職員が地域に出て、福祉サービス等の利用が必要であるにもかかわらず支援につながない人を地域住民と共に発見し支援の窓口につなぐ「アウトリーチ\*機能」の体制が不十分である。
- ◆近隣の住民から見ると支援が必要な状態にあるように見えても、本人はサービスを受ける必要がないと思っている人がいる。

すべての市民	<p><b>【特に推し進めたいアクションその1】</b>          日常的なつながりをつくるために推し進めたいアクション          [すべての市民] ●困っている人の存在に気づいた時、自然に無理なく助け合ったり、必要に応じて専門機関の相談窓口を紹介する。          [活動に参加している人] ●緊急時・災害時に助け合えるような関係を普段からつくる。  <b>到達目標</b> ◇公園や仮想空間*等、気軽に会話できる空間で集まれる機会を増やす。          ◇困っている人と情報を伝える人の双方に認知されるような発信をする。</p>
活動に参加している人	<p><b>地域住民のつながりづくりを進める団体</b></p> <p><b>【特に推し進めたいアクションその2】</b>          ●支援機関の情報やサービス等を把握し、支援を必要とする人に伝える。  <b>到達目標</b> ◇情報を受け取りやすくするため、発信のバリエーションを増やす。          ◇相談支援機関等の情報をまとめて、市民が自由に閲覧できるようにする。          ◇特定の悩みがある人の知りたい市内の情報を集めて、紙やインターネット上で発信する。          ◇相談支援機関の場所や相談できる内容を一覧にする等、視覚的にわかりやすくする。</p> <p>●地域住民同士が気軽に集うことができ、生活の困りごとにも気軽に話し合える場（サロンやイベント）については、より多くの人が集うための工夫や改善を行う。          ●支援が必要な状態に見えても手助けを望んでいない人を地域でそっと見守る。</p> <p><b>特定の課題に取り組んでいる団体</b></p> <p>●地域住民のつながりづくりを進める団体や市民と協力し、気軽に集うことができ、生活の困りごとを話し合える場（サロンやイベント）については、より多くの人が集うための工夫や改善を行う。</p>
市民社協	<p>●地域に出向いて、市民や地域団体とともに地域の困りごとを発見し、支援の窓口や地域のインフォーマルな資源*につなぐ。          ●地域とのつながりがなく孤立している人を地域（住民）につなぐ。          ●制度やサービスで解決できない困りごとは、地域や専門機関と一緒に解決策を検討し、新たな活動やしきみをつくる。</p>
公共・専門機関	<p>●福祉専門職*の採用・設置により相談支援担当職員の専門性の向上を図る。          ●複雑化・多様化する福祉課題への対応力を向上させるとともに、インフォーマルな資源と連動した支援のしきみをつくる。          ●市民社協の地域担当職員の機能の拡充を支援する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域福祉計画にも記載</span>          ●専門機関は市民が気軽に集える場（サロンやイベント）で相談を受ける機会をつくる。          ●相談を受ける場所をわかりやすく市民に紹介する（相談窓口のマップ化や見学会の開催等）。</p>

**基本目標：2 つながりたい時につなぐことができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！**

**取組：(2-2) 地域で自然につながる**

## 現 状

- 第4次活動計画では重点的な取組に「居場所づくりの展開」を掲げ、市民社協では世代や対象を限定せず近所の人が集うことを目的とした「身近な地域の居場所づくり助成・支援事業」を推進してきました。平成28年の事業開始から、令和6(2024)年度までで18団体の立ち上げ支援を行いました。一方で、第4次活動計画を振り返る第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会では、誰もが参加できる場だと行きづらい人がいるのではないかという意見が上がりました。
- 地域社協では、誰でも近所で顔の見える関係づくりを目指して、「丁目活動\*」「ご近所のつどい」のような狭い範囲を対象とした活動や、防災・防犯のような世代を問わず関心を持ってもらえるテーマの活動を、各地域で工夫して実施しています。
- ライフスタイルが変化し、インターネット上でいろいろな人とつながることもできる等の理由から、自分が住んでいる地域でのつながりに関心がない人もいます。
- 地域社協やコミセンでは、交流・つながりづくりを目的としてイベントを開催していますが、開催時期が重なることが多く、同じ地域内で同日に複数イベントが開催されることもあります。
- 武蔵野市には吹奏楽が盛んな小学校・中学校が多く、大人世代も演奏やコーラス等の音楽活動を行っている人が多くいます。その経験や技術を地域で行われるイベントで披露する等、音楽も地域福祉活動に参加するきっかけの一つとなっています。

## 現状に関連して地域懇談会や策定委員会が出された意見

- ◆若い人や新しい転入者とのつながりが少ない。
- ◆若い世代には必ずしも高齢者とかかわりたいと思っていない人もいる。
- ◆「誰もが集まれる居場所」では参加しづらい人もいる。
- ◆「防災」というテーマに関心があっても、人が集まらない。
- ◆防災や福祉等誰にとっても大事なテーマのイベントの中に、参加を促すような楽しく盛り上がるための仕掛けが少ない。
- ◆既存の地域イベントは誰を対象にどのような効果があるか等の見直しも含めた検証が必要である。
- ◆団体間の連携が充分にできておらず、同じ地域内でイベントの日程が重なっていることが多く、人が分散しやすい。
- ◆地域イベントは市報やSNS等を活用した広域的なPRが少ない。

すべての市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ご近所づきあいや自分の興味があること等を通じ、知り合いを増やす。</li> <li>●世代や対象を問わず地域とつながるしくみをつくり、地域の情報を伝える。</li> </ul> <p><b>地域住民のつながりづくりを進める団体</b></p> <p><b>【特に推し進めたいアクションその1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●SNSでイベント情報等を広く周知する。</li> </ul> <p><b>到達目標</b> ◇まだ活動を知らない人に届く発信内容を検討し、実践する。</p> <p><b>【特に推し進めたいアクションその2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●誰でも楽しく集えるサロンやイベント等を実施し、多世代のつながりづくりをすすめる。</li> </ul> <p><b>到達目標</b> ◇気軽に立ち寄り集まる地域の拠点になってもらいたいと思う施設に理解と協力を得るために出向いてみる（例：フィットネスジム、学校等）。</p> <p>◇協力してもらえそうな施設や場所と新たな活動の場を探している団体をつなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●情報を集めたり、活用することに不慣れな人や苦手な人たちにも地域の行事やイベントの情報が届くよう、わかりやすい表現や伝わりやすい手段で情報発信を行う。</li> <li>●地域で自然に顔がつながる場、憩いの場（例：町中のベンチ設置等）をつくる。</li> <li>●地域で行われているイベントの意義を改めて検証するとともに、市全体で見える化することで日程が重ならないような工夫をする。</li> <li>●地域住民同士での密な関係性を控えたい人とも接点を持つ手段を検討する。</li> </ul> <p><b>特定の課題に取り組んでいる団体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自団体に取り組む課題をベースに、防災や音楽等市民共通の関心・課題に楽しさをプラスしたイベントの実施や情報の発信を行う。</li> </ul>
市民社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域住民と共に地域で自然に顔がつながる場、憩いの場づくりを進め、地域の活動をサポートする（活動場所の確保・人材育成・活動資金・広報等）。</li> <li>●防災等市民共通の関心・課題をテーマに、面白さをプラスしたイベントの開催や情報発信を行うことで、市民の関心を高める。</li> <li>●集合住宅の住民組織や企業等市民社協や地域と接点が少ない個人や団体に対し、地域活動に興味を持ってもらうための働きかけを行う。</li> </ul>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域とつながる様々なしくみや、地域で発信されている情報について、情報提供の機会や方法を検討する。</li> <li>●転入者に市窓口で地域活動（団体）の情報を提供するしくみを検討する。</li> <li>●属性を超えて交流できる場や居場所を確保し、住民同士の顔の見える関係性づくりを支援する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域福祉計画にも記載</span></li> </ul>

**基本目標：2 つながりたい時につなぐことができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！**

**取組：(2-3) 地域で一緒に活動できる仲間を増やす**

## 現 状

- 地域活動団体では、これまでの活動を引き継いでくれる人が見つからず、人手不足が課題となっています。そのなかで、「社会人が参加しやすいように、これまで平日の昼間に開催していた会議時間を見直し、土日開催にした」「家事をしながらでも会議に参加できるようにオンラインでも参加できる方法を取り入れた」等の取組を始めた団体もあります。
- 地域社協をはじめとする多くの地域団体では、長期間活動の中心となっていた人が高齢になる等の理由から、新しい担い手との接点やPRの仕方を模索しています。そのなかで、新しい担い手は漠然と「若い人」だけでなく、転入者や子どもが私立の学校に通っている人、仕事で長年地域とかかわりがなかった人等、まだ地域との接点のない「新しい人」の参加をどう促すかを考えるようになりました。
- 地域社協では、同じ地域の学校や他団体が主催するイベントに協力していますが、それでも地域社協の認知度が上がらないことを踏まえて、「ただ参加するだけではなく、もっとPRした方が良い」と考え、帽子や旗等わかりやすい目印をつけて活動するようにした地域もあります。
- 地域活動団体でイベント等を行う際、大学生等の参加を望む声が多くあります。

## 現状に関連して地域懇談会や策定委員会で出された意見

- ◆50、60代の参加が少ない。
- ◆役員の成り手がいない。
- ◆福祉の活動は参加している人の持ち出しが多い。
- ◆活動に関わる人が少ないが、どう募集したらよいかわからない。
- ◆コミセンや地域社協の活動が市民に伝わっていない。
- ◆他団体とあまり連携できていない。
- ◆地域によって、コミセンを運営するコミュニティ協議会や地域社協、自主防災組織等、地域内の団体同士をつなぐハブの役割を担っている団体が異なる。
- ◆時間の経過とともにライフスタイルが変化し、活動が「義務感」や「犠牲」になっているところもある。
- ◆続いてきた活動を今の時代に合わせてどう変えるかが十分に検討できていない。
- ◆地域とつながらなくても商店を運営できるようになり、地域と商店の接点が減ってきた。
- ◆学生は活動に参加することが自身のスキルアップにつながらないと参加しない人が多い。

すべての市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で行われている活動に一度参加してみる。</li> </ul>
活動に参加している人	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【特に推し進めたいアクションその1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域福祉活動にかかわる機会を増やす。</li> <li><b>到達目標</b> ◇一人暮らしや共働き世帯等、多様なライフスタイルに合わせた地域活動との接点をつくる。</li> <li>◇自分の都合に合わせて好きな時に参加できるしくみを検討する。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【特に推し進めたいアクションその2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域福祉活動の評価と精査（見直し）を行う。</li> <li><b>到達目標</b> ◇参加者のすそ野を広げるために活動の見直しも含めて現状の活動を精査することを検討する。</li> <li>◇活動に係る事務等の負担が軽減できないか見直す。</li> <li>◇地域で日頃取り組んでいる活動が評価されるしくみをつくる。また、そのために活動をより積極的に発信する。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域活動の対価のあり方について検討する。</li> <li>●隙間時間での参加や、休日や夜間、学校の長期休暇期間のみの参加も可能となる体制をつくる。</li> <li>●一人ひとりが得意なことや好きなことを活かして地域活動に参加できるしくみをつくる。</li> <li>●趣味活動を入口にして地域活動につながったり、反対に地域活動で出会った仲間で趣味の集まりをつくったりと、活動が広がるきっかけとなる働きかけをする。</li> <li>●活動の「受け手」も仲間として一緒に活動できる場面をつくる。</li> </ul> <div style="background-color: #e0f2f1; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>地域住民のつながりづくりを進める団体</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニティ協議会と地域社協が共通する地域の課題に協力して取り組んでいく。</li> <li>●地域内の団体同士をつなぐハブの役割等、似ている役割を整理して役割分担を明確にする。</li> </ul>
市民社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多世代の地域活動デビューの機会をつくる。 <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">地域福祉計画にも記載</span></li> <li>●学校や事業所でのボランティア学習・福祉学習を進めることで地域活動の担い手づくりを行う。 <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">地域福祉計画にも記載</span></li> <li>●活動に参加している市民と共に地域活動の対価のあり方について検討する。</li> <li>●コミュニティ協議会と地域社協が共通する地域の課題に協力して取り組むため双方に働きかけ、課題や協力できるポイント等を一緒に整理する。</li> </ul>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の活動を積極的にPRするとともに、その活動が評価されるしくみづくりを検討する。</li> <li>●福祉施設におけるボランティアの受け入れを推進し、担い手づくりをすすめる。</li> </ul>



# 身近な地域で6年間に 取り組むこと

(地域社協別地域福祉活動計画)



## 1 地域社協別地域福祉活動計画の策定と振り返り

地域懇談会などで出された意見を踏まえ、身近な地域（おおむね小学校区ごと）で今後の6年間に取り組むことを、地域社協の運営委員を中心に話し合い、まとめました。

### （1）住民が主体となって作った計画

地域社協別地域福祉活動計画（以下「地域別活動計画」）は、「自分たちの地域は、自分たちで良くしていく」という考えのもと、その地域の住民により、内容やレイアウトも含め策定された計画です。

地域社協\*の役員や運営委員が中心となってまとめた計画ではありますが、一部の市民だけが取り組むものではなく、それぞれの地域で暮らす市民一人ひとりが力を合わせ、その地域の目標に向かって行動することが大切です。

お住まいの地域の計画をご覧ください、「これなら自分にもできそうだな」「家族や友人に声をかけてやってみよう」「地域福祉活動に参加してみよう」等、自分ができること、できそうなことを考え、行動するきっかけとしてください。

### （2）地域別活動計画の振り返り

今後6年間において、地域別活動計画は地域社協を中心に、その地域の住民が中心となって、その推進や振り返りを行います。しかし、たとえ目標が達成できなかったとしても、その責任が問われるものではありません。目標の達成度や数値だけでなく、そこに至るまでの過程や日々の生活の中で「顔見知りが増えた」「近所同士が挨拶できるようになった」「知合いが増えた」等の地域の変化を地域住民自らが振り返り、今後についての話し合いを継続していくことにこそ、意義があります。

### 身近な地域ごとの計画があるのは全国的にも珍しい？

地域社協のような小地域福祉活動を推進する地域住民のボランティア活動は、全国的には「地区社協」と呼ばれています。しかし、地区社協のような小さい単位での自主的な活動が組織的に行われ、さらに地域住民が中心となって、その地域の目標（地域別活動計画）を立て活動しているところは全国的にも珍しいのが現状です。

## 2 地域社協別地域福祉活動計画

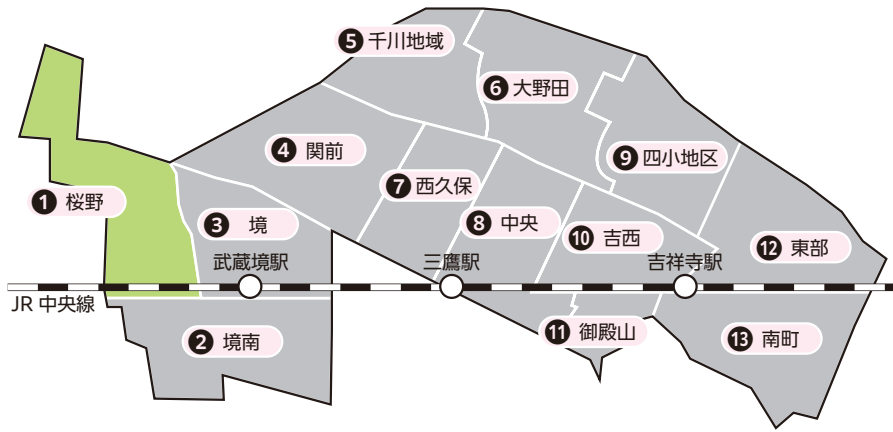


①	桜野地域福祉活動推進協議会 (桜野地域社協)	桜堤全域、境2・4丁目の一部 および 5丁目	P35
②	境南地域福祉活動推進協議会 (境南地域社協)	境南町全域	P37
③	境地域福祉活動推進協議会 (境福祉の会)	境1～4丁目	P39
④	関前地域福祉活動推進協議会 (関前福祉の会)	関前全域	P41
⑤	千川地域福祉活動推進協議会 (千川地域福祉の会)	八幡町全域、緑町1・2丁目の一部	P43
⑥	大野田地域福祉活動推進協議会 (大野田福祉の会)	吉祥寺北町3丁目の一部 および4・5丁目、 緑町1・2丁目の一部および3丁目	P45
⑦	西久保地域福祉活動推進協議会 (西久保福祉の会)	西久保全域	P47
⑧	中央地域福祉活動推進協議会 (中央福祉の会)	中町全域、御殿山2丁目	P49
⑨	四小地区地域福祉活動推進協議会 (四小地区福祉の会)	吉祥寺東町の一部、吉祥寺北町1・2丁目 および3丁目の一部	P51
⑩	吉祥寺西地域福祉活動推進協議会 (吉西福祉の会)	吉祥寺本町1丁目の一部、 吉祥寺本町2～4丁目	P53
⑪	御殿山地域福祉活動推進協議会 (御殿山福祉の会)	御殿山1丁目	P55
⑫	吉祥寺東地域福祉活動推進協議会 (東部福祉の会)	吉祥寺東町全域、吉祥寺本町1丁目の一部	P57
⑬	吉祥寺南町地域福祉活動推進協議会 (南町福祉の会)	吉祥寺南町全域	P59

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

# 桜野地域社協 地域福祉活動計画



## 桜野地区データ

人口：13,745人  
 ※令和7年2月1日現在  
 ※境2・4丁目を除く  
 世帯数：7,004世帯  
 ※令和7年1月6日現在

## 桜野地域社協データ

エリア：桜堤全域、境2・4丁目の一部および5丁目  
 設立：平成10年5月24日

## 活動内容

### ●こどもまつり

おまつりを通しての多世代地域住民の交流。  
 屋台、ゲームコーナー、チャリティーバザーなど。チャリティーバザーの収益は市民社協に寄付をしています。春、秋の年2回開催。

### ●七夕お飾りの会

高齢者施設と地域住民と子どもの交流。  
 子供たちがお飾りを作って地域の施設に持っていき入居者さんと一緒に飾り付けをします。

### ●昔遊び

昔遊びを通しての多世代地域住民の交流。  
 おはじき、お手玉、竹馬など昔遊びを通して幅広い世代の方が参加して楽しめます。

### ●小地域毎での交流お茶会

地域住民の交流の場。  
 ご近所同士での交流の場を作る為のお茶会手芸をしたり、お喋りをしたり内容は様々です。

### ●健康講座 地域 / 安心安全・講話

高齢者向け講座。  
 フレイル予防講座、エンディングノート勉強会など安心安全に暮らせる講話などを実施しています。



# 助け合いのまち桜野地域

～安心・安全のまち～

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

## 桜野地域が掲げる3つの目標

### 目標1…みんなが集える地域

- 居場所
- 世代を超え共につながる
- 地域ごとの事業実施

### 目標2…助け合いのネットワークを確立する

- 地域を超えての助け合い
- 新しい運営委員を増やす
- 小委員会（部会）の立ち上げ

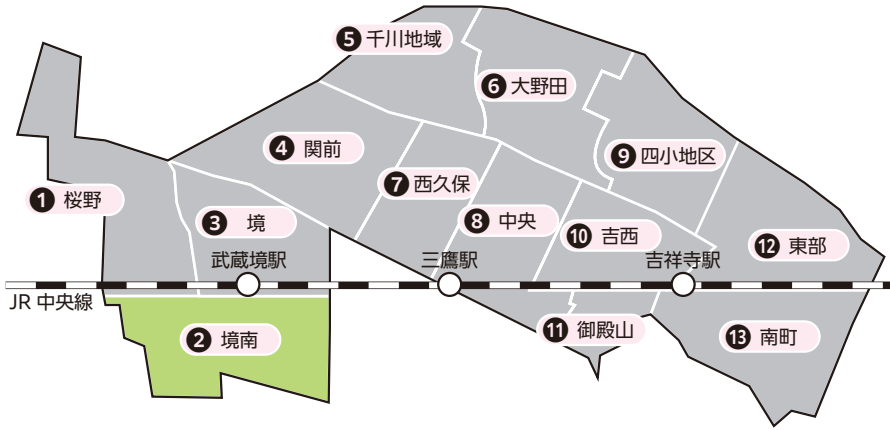
### 目標3…防災・防犯の情報共有

- 防災の意識を高める

## 課題

- 地域や各方面での情報伝達共有の方法。
- 地域社協の活動を知るきっかけづくり。
- 地域活動の担い手を増やし活動の定着を目指す。

# 境南地域社協 地域福祉活動計画



## 境南地区データ

人口：15,316人  
 ※令和7年2月1日現在  
 世帯数：8,403世帯  
 ※令和7年1月6日現在

## 境南地域社協データ

エリア：境南町全域  
 設立：平成7年10月30日

## 活動紹介

(★これまでの特色ある取り組み)

- ★丁目活動、くまのこひろば
- ★境南小4年2組メロンづくりサポート（協業：地域コーディネーター）
- ★研修会「10年後の境南町を考えるワークショップ」（共催：境南小学校開かれた学校づくり協議会）



丁目活動	定期的に各丁目で開催
くまのこひろば	地域で子育て支援と交流の場作り
おしゃべりサロン	地域での居場所づくり
お裁縫検定	小学生への裁縫基礎伝授
のぞみガーデン事業	のぞみの家の生活環境を草木で彩る環境づくり
災害時要援護者対策事業	安否確認模擬訓練・支援者との意見交換会
研修	各種研修会・バス研修など
地域交流事業	「赤十字子供の家」諸行事協力(秋まつり、餅つき)
	「のぞみの家」諸行事協力、「コミセン文化祭」参加
	「境南保育園」諸行事協力(地域交流会、お正月あそび他)
	「青少協・どんど焼き」協力、「武蔵境ピクニック」協力
	「境南コミュニティ協議会」との連携及び行事参加
	「地域防災懇談会」協力ならびに「防災訓練」参加
	「あそべえ」行事協力、「境南盆おどり」に協力
「境南小ボランティア」「境南小PTA」連携	

# スローガン

## 笑顔あふれる境南町！

### 隣近所の助け合いに勝るものなし！

## 重点目標／具体的な取り組み

- ◆地域ふれあいの場(居場所)や、支え合いの仕組みづくり！  
(高齢者・子ども・障がい者・マンション・転入者・外国人)
- ◆地域社協の活動の見せる化と福祉の担い手づくり！

### 1. 支え合いの仕組みづくり強化

防災-減災をキーワードに地域ネットワークの連携を深める

### 2. 地域ぐるみで子育て支援

「くまのこひろば」を定着させ、地域に住む親子の子育てと交流を支援する

### 3. 障がい者や外国人に優しい地域

既存の団体や施設との連携を図り、障がい者や外国人を支援する

### 4. 境南地域社協の活動の見せる化

境南地域社協のPRに積極的に取り組む

## 地域の現状と課題 (地域懇談会のまとめ)

### 住民のつながり

- ☒自治会が無く、丁目活動が盛んだが、その活動に入っていない方は取り残されているかもしれない
- ☒住環境はとても良いが、住民間の声かけ、挨拶のしにくさ、無関心もあり、お互いの様子が不明
- ☒外国籍の人との関係やつながり方が不明

### 世代の問題

- ☒地域活動の担い手の高齢化：50代、60代が少なく、若い人の参加がない
- ☒世代間の交流が少ない⇒各世代のつながりを作ることで、地域のつながりに結び付ける

### 地域社協のこと

- ☒活動の様子が見えない⇒子育て世代を含めた活動のアピールが必要
- ☒人材不足で活動が縮小傾向、役員の負担増のため、継続性を意識された取り組みにしづらい⇒仕事をしながらの関わり方、活動の概念・規則の検討が必要
- ☒仲間を増やす活動が単発・個人の力に依存している⇒人材の発掘方法の検討が必要
- ☒活動のスリム化・効率化を進め、「楽しい化」する：やる気スイッチを入れる、メンバーの得意分野を生かす

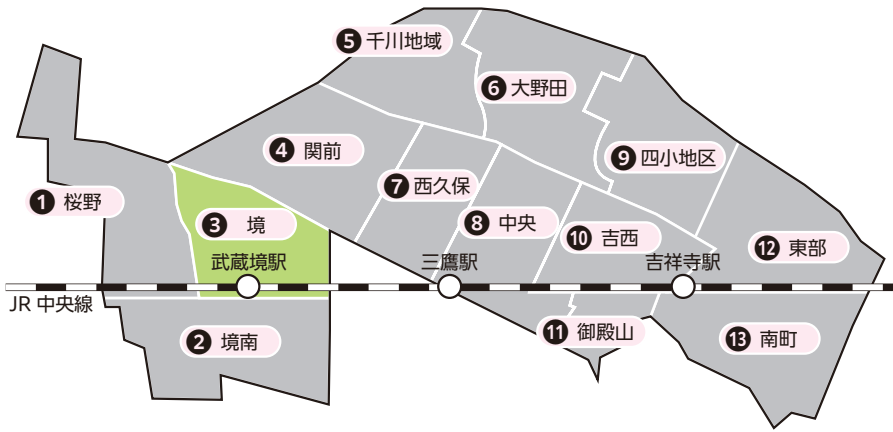
### 他の地域団体とのこと

- ☒地域団体の横のつながりがよくわからない
- ☒どの団体も高齢化(少子化)であり、活動を担っている人が重複している

### その他

- ☒詐欺被害が多い、空き家が多い、子ども食堂のような「場」がない、市役所に行きにくい、自転車マナーが悪い人が目につく
- ☒高齢者が集まる場所がなく遠い、ひきこもり高齢者増加の懸念、見守る高齢者が増えている気がする

# 境福祉の会 地域福祉活動計画



## 境地区データ

人口：11,596人  
 ※令和7年2月1日現在  
 世帯数：5,681世帯  
 ※令和7年1月6日現在

## 境福祉の会データ

エリア: 境1~4丁目  
 設立: 平成10年9月5日

## 境福祉の会の活動



サマーフェスティバルにて投票いただき、  
 広報誌のロゴを決定しました！

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
 (地域社協別地域福祉活動計画)

# 笑顔いっぱい境のまち

## <目標>

- ・世代を越えた横のつながりを作る
- ・各方面と協力しながら境のまちに交流の場をつくる
- ・いざというときのために顔見知りが増えるような地域づくりをする

## <地域の現状と課題>

- ・活動拠点・居場所がない
- ・人材不足
- ・地域の防犯、防災

…それぞれ達成できず、状況が更に深刻になっているため活動や運営の抜本的な見直しが必要

# 関前地域福祉の会 地域福祉活動計画



## 関前地区データ

人口：9,463 人  
※令和 7 年 2 月 1 日現在  
世帯数：4,625 世帯  
※令和 7 年 1 月 6 日現在

## 関前福祉の会データ

エリア：関前全域  
設立：平成 10 年 3 月 8 日

## 写真で見るこれまでの活動



七夕づくり  
コミセン共催



栄養講座



コミセンまつり  
子供向けワークショップ  
びゅんびゅんレインボー作り



地元企業と協働しショールームに園児の作品を展示  
道を往来する人に安らぎを与えている  
地元の子供たちががオーナメントを自作してツリー  
に飾りつけ(右) 保育園児の描いた絵も展示(左)



声かけ運動ポスター  
関前の団体と協働

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

## スローガン 世代を超えた福祉の環 ～かわす挨拶 生む笑顔～

### 目標① 地域の各企業との協力関係を模索推進する

地元企業との企画連携モデルを更に進め他の業種企業にも広げるべく取り組む

### 目標② 地域の各福祉施設・団体との新たな連携スタイルを構築する

現状の協力体制から更に深化させ、人の交流を始めとした地域の一体感醸成を目指す

### 目標③ 持続可能な組織構築を目指す

地域環境や住民意識の変化、会の構成年齢の変化等に対応した活動の実践

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

## 地域の課題と現状

### 【課題】

\*担い手の大幅な不足 \*運営委員・協力員の高齢化 \*コロナ以後の意識変化



地域社協を含む他団体の共通課題⇒特効薬なし

### 【現状】

新たな活動を模索し一部実施



他団体・企業との協働 (地元企業ショールームの活用・地域内保育園やプシュモットン制作室との協働)



広報紙等の広報活動見直し

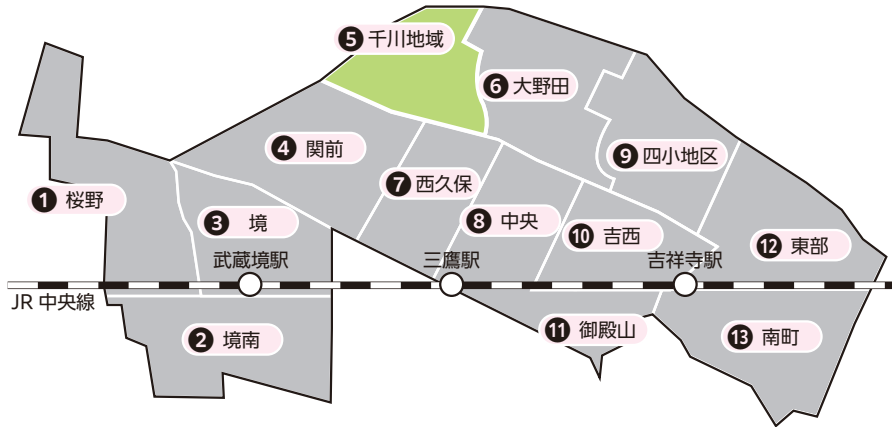
# 千川地域福祉の会 地域福祉活動計画

## 千川地区データ

人口：9,281人  
 ※令和7年2月1日現在  
 ※緑町2丁目半数を除く  
 世帯数：4,007世帯  
 ※令和7年1月6日現在

## 千川地域福祉の会データ

エリア：八幡町全域・  
 緑町1・2丁目の一部  
 設立：平成9年6月7日



## 活動紹介(これまでの特色ある取り組み)



↑ コミセン文化祭での活動紹介  
 (福祉活動マップも作成)



↑ 災害時要援護者安否確認訓練  
 (トランシーバー通話訓練も実施)



↑ 折り紙の会の作品



↑ 写経・写仏の会の作品

\* この他に、「シニア支え合いポイント」制度の活用を開始しました。

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
 (地域社協別地域福祉活動計画)

# スロージョ 支え合おう！ 大きな家族 やさしいまち千川

目標①



すべての年代を対象とした事業の実施

目標②



持続可能な組織体制・活動体制の構築

## (地域懇談会で出た)地域の現状と課題

分類	課題・意見
地域のつながり	子育て世帯同士のつながりはありそうだが、地域住民とのつながりは難しい 困りごとの受け皿はどこに、誰に？
	新住民へのアプローチ
人を集めるためには	企画によって参加する層が変わる
	コミセンでコーヒーを飲みながらおしゃべりする企画をやっている 既存のテントが昔のもので重く使いにくい
災害時に向けた対策	区域内の高校の避難所の運営をもっと知りたい
	災害時要援護者対策事業の周知 災害時の千川上水の活用(飲み水)
高齢化・独居	日中の独居か高齢者が多い
	見守りや安否確認・コミュニケーションの取り方が難しい 急病の場合の対処 夜になると寂しい雰囲気

## 取り組み案

- ◇ 挨拶から始めて少しずつ関係を作っていく
- ◇ 顔見知りになると自然と相談し合える関係になれるかもしれない
- ◇ 小規模で気軽に参加できるイベントの企画
- ◇ おまつりなどのイベントで人を集める
- ◇ テントを使いやすいものに買い替える
- ◇ 高校の避難所の運営側と連携を強める
- ◇ 中央公園の災害時の機能を住民が学べる機会をつくる(増やす)
- ◇ 「無事です」カードの活用を広げる(集合住宅など)

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

# 大野田福祉の会 地域福祉活動計画

## 大野田地区データ

人口：8,922人

※令和7年2月1日現在  
※吉祥寺北町3丁目、緑町  
1丁目・2丁目の半数を除く

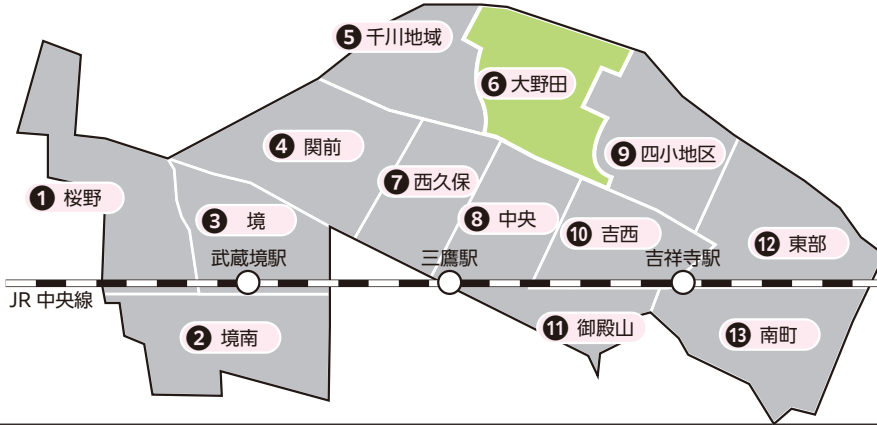
世帯数：5,976世帯

※令和7年1月6日現在

## 大野田福祉の会データ

エリア：吉祥寺北町3丁目の一  
部、4・5丁目、緑町1・2丁  
目の一部および3丁目

設立：平成10年11月1日



## 安心して暮らせる福祉のまちをめざして

### 高齢者部会

イベントや  
おしゃべりの会  
を通してつな  
がる

### 障がい者部会

障がいのある人が  
街に慣れる・街が慣れる  
を目標に  
活動しています

### 広報部会

大野田小学区域の  
6300世帯にボランティア  
の協力で様々な情報を  
お届けしています

### ご近所のつどい プロジェクト

～安心・安全のポイントは  
ご近所との繋がり～  
きっかけ作りを  
お手伝いします

### 居場所 プロジェクト

「お茶と飴・  
おしゃべりと安心」  
をモットーに  
緩やかなつながりを広め  
支え合いの日常をつくり  
たい  
「みどりの縁がわ」  
「ひびのさんち」運営

### 子ども部会

子どもたちと  
子育て中の方々に寄り添い  
元気に  
明るく楽しく  
ゆったりと  
交流しています

### 災害時支援 プロジェクト

震度5弱の地震が  
起きた時に、登録されて  
いる要援護者の安否確認  
がスムーズにできるよう  
検討しています

### 役員会

### 地域の方々

デンミリオンハウス  
ふらっと  
きたまち



V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

# スローガン

## 安心して暮らせる福祉のまちづくり

### 目標

#### ① 地域・ご近所でのお知り合いを増やす

- ・「ご近所のつどい」をさらに進めていき、また、福祉の会の内容を説明し理解を深め、運営委員を増やす
- ・「みどりの縁がわ」などのような地域の交流の場・機会を増やし、居心地の良い場になる
- ・新しい「担い手」を発掘するために SNS など様々な形での取り組みや、活動の情報を発信する

#### ② 地域団体間の交流を増やす

- ・交流イベントや小・中学校での子どもたちとの活動で顔の見える関係を築き、将来の担い手を育てていく
- ・地域内にある施設や団体と協力し、理解を深める
- ・防災・防犯などの必要な情報を地域で共有出来るように各関連団体との連携を深める

#### ③ 災害時の対応準備

- ・災害時要援護者事業への理解をより深めていく
- ・大野田地域防災の会との連携を密にして、防災訓練などに参加し防災の知識・意識を高めたい

### 地域の現状と課題

#### ① 人と人とのかかわりが少なくなっているため、ご近所のつながりが希薄

- ・防災など必要な情報を共有する取り組み「ご近所のつどい」などを通じてつながりを増やしていく
- ・マンションなどの集合住宅内のつながり方と、地域のつながりを考えなくてはならない

#### ② 世の中の価値観が多様化しており、困り事も支援方法も多様化

- ・地域の中でも時代に合わせた内容(情報発信・情報収集)を考えていく必要がある
- ・活動に参加したいと思うような体制を整えたい

#### ③ 高齢化

- ・高齢化が進み、高齢者のみの世帯や一人暮らしも増加している
- ・「活躍する場所」「社会参加する場所」などニーズに合わせて有益な情報を発信していく
- ・つながりの場や交流の機会を作り、居場所の情報提供なども大切にする

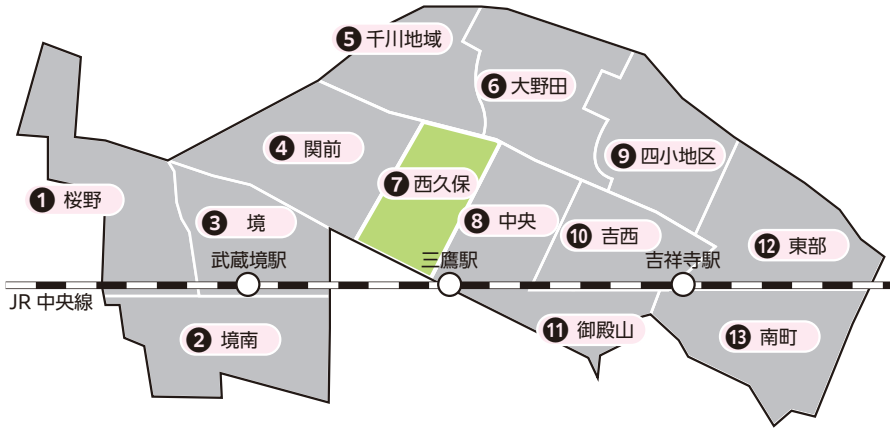
#### ④ 犯罪や事件がより身近で深刻化

- ・ご近所のつながりの強化や、防犯協会など関連団体との連携を深めていき、情報を発信し注意喚起を促していく

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

# 西久保福祉の会 地域福祉活動計画



## 西久保地区データ

人口：12,210人  
 ※令和7年2月1日現在  
 世帯数：6,898世帯  
 ※令和7年1月6日現在

## 西久保福祉の会データ

エリア:西久保全域  
 設立:平成7年10月3日

## 【活動紹介】

“西久保福祉の会”の運営委員は、学校、地域団体、自治会、商店会、老人クラブ、民生児童委員、保護司、武蔵野市消防団、三谷通駐在所、そして地域有志の皆様（65名のボランティア）で構成されています。

『ご近助カアップ』の実現のため、地域団体と共催・協力し様々な行事を実施しています。

### 高齢者総合センター秋祭り

ラスク販売（復興支援の一環として東日本大震災の影響を受けた障がい者施設に対して売上を寄付）及び赤い羽根共同募金の募金箱設置

### 西久保コミセンふれあいまつり

ふれあいルーム利用者の作品展示・ラスク販売・ぬり絵コーナー・赤い羽根共同募金募金箱の設置



### どんど焼き

お正月飾りを焼き上げて無病息災を祈る行事

### ふれあいルーム

高齢者の居場所・安否確認・ぬり絵カレンダーづくり・お弁当配り

### 災害時要援護者対策事業 支援者の会

地域支援課・防災課とともに支援者の方との説明懇談会



西久保地域では、高齢者の皆さんの居場所づくりがさかんに行われています。笑顔のあるお喋りを大切に、温かく見守る地域活動や居場所を紹介します。

西久保コミュニティ協議会 老人クラブ 清和会・愛光会 テンミリオンハウス川路さんち 2丁目安心助け合いネットワーク いきいきサロン むちゅーいきいきサロン・まきばサロン・サンサンサロン西久保 居場所づくり西久保ひだまりの会

．．【スローガン】  
ご近助力で支えあいのまちづくり

**目標① 事業と広報の充実**



- ・事業の継続と新たな取り組みを行う。
- ・活動内容を「福祉だより」にて、各所の利用者実態を把握しながら広報していく。

**目標② 災害時も安心のまちづくり**



- ・防災を学びながら確認作業を行う。
- ・普段からお知らせ手紙などを配るための訪問時にコミュニケーションをとるなど、地域の方が安心して暮らせるよう、災害時等の緊急時に関われる関連性づくりをしていく。

**目標③ 新しい地域の拠点づくり**



- ・気軽に立ち寄れる場(食堂、喫茶店など)をつくるとともに、同世代、子を持つ親や障害のある方など同じ境遇の人が集まれる仕掛けが必要。

**目標④ 新たな人材・協力企業の発掘**



- ・次世代とのつながりを持てるような地域の交流活動への参加や地元企業のスペース(会議室など)を借りて関わりをつくるなど、積極的に幅広い協力者を増やせるようにしていく。

**【地域懇談会で出た現状及び課題】**

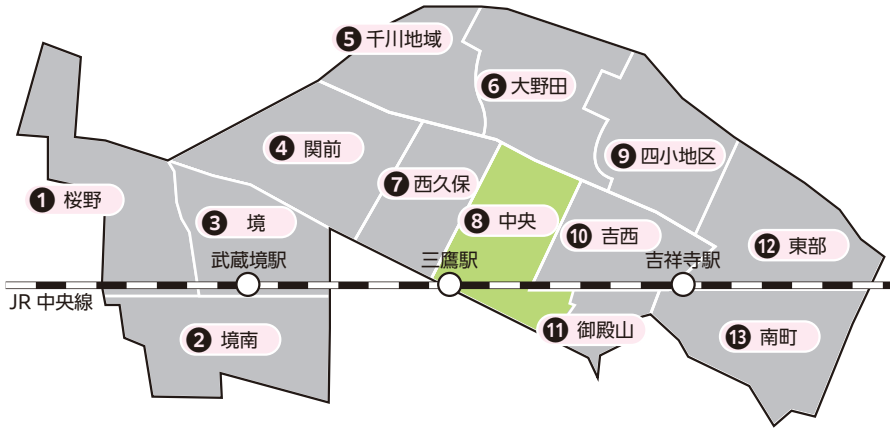
(現状)

- ・古い家が多く、高齢者が増えた
- ・集合住宅が増えた
- ・コロナ禍以降、家で過ごす人が増えたと感じる
- ・駅に近く、夫妻で働く人が多く、日中地域に人がいない

(課題)

- ・協力企業が見つからない
- ・共働き世代など若い年齢層との関りが少ない
- ・避難所が遠すぎる
- ・小さいお子さん連れの世帯の顔が見えない

# 中央福祉の会 地域福祉活動計画



## 中央地区データ

人口：9,324人  
 ※令和7年2月1日現在  
 世帯数：17,069世帯  
 ※令和7年1月6日現在

## 中央福祉の会データ

エリア：中町全域、御殿山2丁目  
 設立：平成13年4月1日

## 活動紹介

高齢者支援<りんどうの会>  
 対象：主に一人暮らしの高齢者  
 開催：第3木曜日に中央コミセンにて



男の料理教室  
 中央コミセンにて年3回程度実施



子育て支援<親子ニコニコ広場>  
 対象：0～3歳児とその保護者  
 開催：第3金曜日に中央コミセンにて



ネットワーク委員会  
 災害時要援護者の安否確認  
 訓練を毎年実施



広報  
 中央福祉の会だよりを年4回発行



研修行事  
 研修・行事を企画実施



V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
 (地域社協別地域福祉活動計画)

## スローガン

### 住み続けたい街 中町・御殿山

だれでもがより暮らしやすい地域をめざして

#### 目標

##### 1. 新しい担い手の確保

- ・地域活動に興味のある方々が参加しやすい企画を立てる
- ・年代を超えた楽しいイベントを行う
- ・広報紙「中央福祉の会だより」を発行し、会の活動を知ってもらう



##### 2. 隣近所のつながり合いのある町づくり

- ・町内防災会との連携を広げ、いざという時に近所同士の助け合いができるように、ミニ集会を開催する
- ・「りんどうの会」「親子ニコニコ広場」「男の料理教室」の活動を継続する

##### 3. 居場所づくり

- ・年代に関係なく、誰でも立ち寄れる場所づくりに取り組む
- ・高齢者や乳幼児・小学低学年の子供たちが安心して立ち寄り、交流できる場所を探す



##### 4. マンションとの連携を推進する

- ・マンションが多く、新しい住民も多い。そのため、隣近所のつながりが薄いと思われるので、管理組合との情報交換、市との連携等を進める



#### 現状と課題

##### ➤ 会の担い手が増えない

「福祉の会に興味があり、活動できる方」にターゲットを絞って、声かけをする  
「中央福祉の会って、何をやってるの？」の問いかけに答えられる活動を目指す  
災害時要援護者対策事業の支援者の高齢化と新支援者の確保が困難

##### ➤ 「親子ニコニコ広場」の参加が年々減少している

ニーズの変化があった。地域には多くの保育園があり、入園も可能。ニーズを見直し、他団体とのコラボ、SNS 利用、参加しやすい曜日変更の見直し等を検討する

##### ➤ 居場所づくり

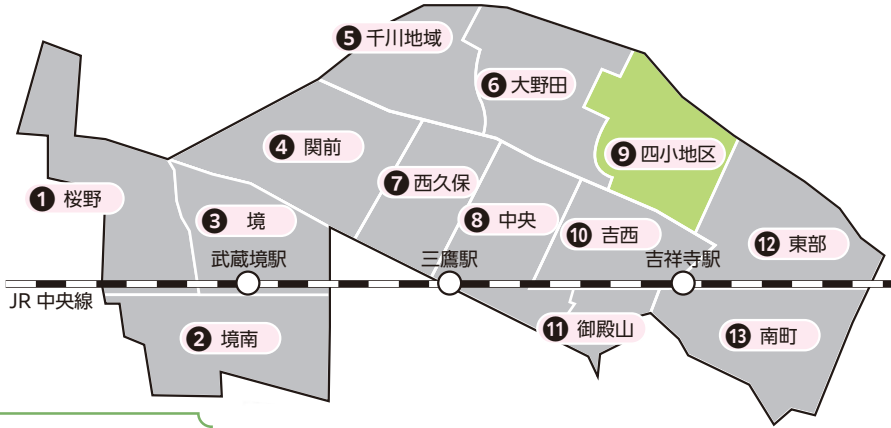
前回目標としていた「男の料理教室」の開催は達成できた。  
誰でも気軽に立ち寄れる場所がないので、地域的に確保が難しいが、継続的に取り組む



##### ➤ 他団体との連携

中央コミセンとの連携、赤十字奉仕団、くるみの木、ワークショップ MEW、一中地域防災会、井之頭小学校避難所運営協議会、青少協との協力関係を強く築いていく  
企業の社会貢献の取り組みの力を借りて、会の発展につながるアプローチを図っていく

# 四小地区福祉の会 地域福祉活動計画



## 四小地区データ

人口：10,313人  
 ※令和7年2月1日現在  
 世帯数：3,923世帯  
 ※令和7年1月6日現在

## 四小地区福祉の会データ

エリア：吉祥寺東町の一部、吉祥寺北町1・2丁目、3丁目  
 の一部  
 設立：平成10年6月14日

## 活動紹介

### にこカフェ

毎月第三火曜日 北コミで開催



### ニュースレター・冊子



### みんなのクリスマス会

テンミリオンハウスと共催



☆午後のひと時楽しいおしゃべり

### 安否確認訓練



### お花見散歩



☆お花見でご近所を散歩

### 新一年生下校時見守り



V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
 (地域社協別地域福祉活動計画)

## スローガン 「世代を越えてつながろう 人と出会うまち四小地区」

助け合いネットワークを目指し、地域に関わる団体・  
組織の方々と情報共有する場を作っていく

防災・災害時要援護者対策事業  
支援者探し・支援者懇談会  
安否確認訓練  
要援護者に暑中見舞・寒中見舞発送  
四小地域防災会への参加・協力

効果的な情報発信  
ニュースレター  
SNS(Xへの投稿)  
掲示板・チラシ  
パンフレット  
講演会

地域の団体・組織の方々との  
情報共有する場  
総会  
運営委員会

ネットワークづくり・居場所づくり  
にこカフェ  
お花見散歩  
みんなのクリスマス会  
新一年生下校時見守り  
親子ひろば(協力)  
北町さわやかまつり参加  
北コミ文化祭参加

### 課題・意見

- ◆ 近所同士が助け合える仕組みがない
- ◆ 隣近所との付き合いが希薄
- ◆ 地域の団体同士の横のつながりを強めたい
- ◆ 福祉の会の認知度が低い
- ◆ 福祉の会の担い手不足と高齢化
- ◆ 災害時要援護者対策事業の人員確保

# 吉西福祉の会 地域福祉活動計画

## 吉西地区データ

人口：11,802人  
※令和7年2月1日現在  
世帯数：6,022世帯  
※令和7年1月6日現在

## 吉西福祉の会データ

エリア：吉祥寺本町2～4丁目、  
1丁目の一部  
設立：平成13年4月1日



## 吉西福祉の会の活動紹介

### ☆ふれあい部会

- ・ **あじさいひろば** (共催：吉祥寺西コミュニティ協議会 於：大会議室)  
高齢者の方々の集いの場 いろいろなプログラムやおしゃべりが楽しめます  
毎月第2・4火曜日 10時～12時

### ☆子育て部会

- ・ **ひろばひよこ** (於：吉祥寺西マゼン2階和室)  
対象：未就園の乳幼児と保護者  
自由遊び、歌遊び、絵本他。情報交換など。  
毎月第2月曜 10時～12時 (祝日の時は第3月曜日)
- ・ **ひろばひよこぷらす+** (於：吉祥寺西マゼン)  
対象：0歳～年長 (兄弟は年齢制限なし)  
いろいろ楽しいことを企画  
毎月第3日曜 10時～11時半



あじさいひろばクリスマス会

### ☆広報部会

吉西福祉の会だより年3回  
約100名のポスターにより配布しています

### ◎ サポーターの集い (年1回)

広報紙 吉西福祉の会だよりの配布を  
サポートするサポーターの方々との集い  
地域の情報交換の出来る場です



バケツリレーがはじまりま～す

### ◎ 春うらら ひなまつりの集い

地域の高齢者と共に集い楽しむ 春の宴(共催：吉祥寺西コミュニティ協議会 於：地下1階プレイルーム)

### ◎ 西公園なかよし祭りに参加・協力

### ◎ 一小地域防災ネットワーク・井之頭小避難所運営協議会への協力

### ◎ 地域の学校・関係団体への協力

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

## 吉西福祉の会のスローガン

# あいさつは 宝



## 吉西福祉の会での取り組み

- ・地域を知るために、ミニ懇親会を継続して実施し、課題を共有し住民と一緒に解決案を考える
- ・広報活動をさらに充実させ、地域への情報提供に努める
- ・吉祥寺西コミュニティ協議会をはじめ、本町在支・学校・青少協・商店会・一小地域防災ネットワーク・井之頭小避難所運営協議会など地域の団体および個人等と積極的に継続的な話し合いをし、本町の福祉・防災・防犯等の連携・協力をする

## 地域の現状と課題

- ① “あいさつは宝”をもっと普及させたい。まずは、隣近所とのあいさつから。
- ② 広報紙の配布の大切さを考え、配布の方法等検討する。
- ③ この地域の実態はほとんどが有料老人ホームへの入所が現状だが、できる限り自宅で過ごしたい。そのために、近所で集まれて、気軽に相談もできる居場所が欲しい。
- ④ ふれあい部会と子育て部会のコラボ。世代を超えての交流。
- ⑤ コミセンと協力して、未就学児の参加するイベントの充実。地域とのつながりを豊かにして、就学後は保護者のPTAへの参加に繋げる。
- ⑥ 高齢者の見守りや、小・中の子供たちの見守りおよび居場所の提供。
- ⑦ 町に、高齢者が一息つける椅子一脚運動を！
- ⑧ 新しいメンバーを増やせるように、楽しい魅力的な活動を目指す！

# 御殿山福祉の会 地域福祉活動計画



## 御殿山地区データ

人口：2,250人

※令和7年2月1日現在

世帯数：1,324世帯

※令和7年1月6日現在

## 御殿山福祉の会データ

エリア：御殿山1丁目

設立：平成13年4月1日

## 御殿山福祉の会の活動紹介

### 災害時要援護者対策事業への協力による 安否確認訓練

大きな地震が来た時に、あらかじめ登録している「要援護者」の安否確認を行う武蔵野市の事業「災害時要援護者対策事業」に協力しています。もしものときに備えて、年1回安否確認訓練を行っています。

### その他の活動は 現在休会しています

これまで「DE 愛♡ささえ愛♡楽しみ愛♡のまち御殿山」をスローガンに掲げ、防災訓練、落語を楽しむ会、みんなでカフェやチャリティーカラオケ大会等、様々な企画を行ってきましたが、運営を担う役員や運営委員が年々減少し、その役員も同じ地域で別団体の役員等を兼任する等のことから、これまでの活動をそのまま続けることが難しくなりました。現在は活動を整理し、安否確認訓練のみを行っています。

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

# スロージョー DE 愛♡ ささえ愛♡ 楽しみ愛♡ のまち御殿山

## 今後進めたい活動のイメージ

### 防災活動をとおして地域の助け合える関係づくりを進めたい

地震や災害が来たときに、本当に地域の人々が力を合わせ、協力して、難局を乗り越えるための地域づくりと隣人同士が助け合いのできるしくみづくりができたと思う。

## 地域懇談会で出た「地域の現状と課題」

令和6(2024)年8月に行われた地域懇談会では、次のような意見がありました。

### 地域社協の目的・活動について

- ・イベントはあくまでも手段。どのような効果があるかが大事。
- ・継続させるしくみが必要。
- ・機能性を優先した地域の実情に即した体制づくりが必要。

### 地域福祉活動に取り組む人の様子

- ・町会、商店会、青少協等の役割を兼任している人が多い。

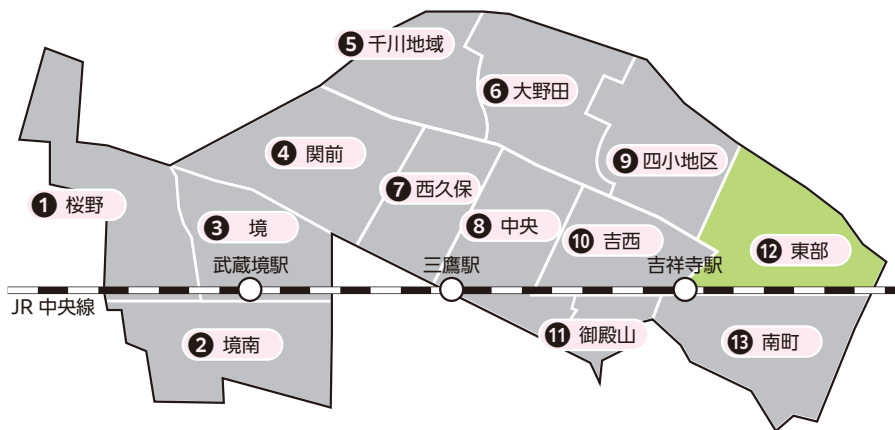
### 住民同士の交流について

- ・集合住宅が多いが接点が少ない(セキュリティが高く入れない)。
- ・新旧の住民の交流があまりない

### 【このようなことに取り組めたらいいなという案】

- ★御殿山コミセンの利便性を活かすしくみ
- ★コミセンを拠点とした他機関との連携
- ★集合住宅の住民との接点を持ちたい
- ★地域にある商店や関係機関との連携
- ★SNSの有効活用(SNSを使っている方との接点として)

# 東部福祉の会 地域福祉活動計画



## 東部地区データ

人口：12,828人  
 ※令和7年2月1日現在  
 ※吉祥寺本町1丁目を除く  
 世帯数：6,698世帯  
 ※令和7年1月6日現在

## 東部福祉の会データ

エリア：吉祥寺東町全域、吉祥寺本町1丁目の一部  
 設立：平成10年2月18日

### 情報交換会

2カ月に1度、地域で活動する団体が集い情報交換をしています。

### 〇〇県を知ろう！

年に2回、〇〇県を着に名産品を味わいながら地理や歴史、方言など語り合い交流します。

### たんぽぽサロン

毎月第2木曜日 10:00～  
 吉祥寺東コミセンのロビーでお茶を飲みながらおしゃべりタイム！

### ラジオ体操

毎月第2・第4金曜日  
 9:30～  
 吉祥寺の杜  
 宮本小路公園

こんな活動をしています

広報紙たんぽぽ  
 ホームページ  
 X



### 東部フェスティバル

福祉・防災・環境に関する情報の展示や体験、地域の方々の交流を目的に、地域の諸団体、関係団体が一堂に会します。



### Andante アンダンテ

障がいを抱える方やそのご家族に寄り添う活動について地域で考えていきます

### 若葉グループ

若葉会(高齢者対象)を仲良く、楽しく開催しています  
 毎月1回開催  
 (7.8月を除く)

### 吉祥寺東おもちゃ

病院グループ  
 壊れたおもちゃを修理します

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
 (地域社協別地域福祉活動計画)

# 「一人一人を大切に！ ともに支え合おう」

## ① 地域のつながりづくり

- ・新しい人との交流
- ・ちょっとしたお手伝い
- ・世代を超えた交流の場
- ・地域の情報発信
- ・他団体とコラボレーションしたイベント
- ・次世代の担い手の確保

東部フェスティバル 情報交換会 県を知ろう ラジオ体操  
グループ活動（若葉グループ・アンダンテ・吉祥寺東おもちゃ病院  
園芸グループ・小遠足グループ・たんぽぽ映画）

他団体とコラボして子どもと楽しむイベントの開催 広報担当者募集  
つながり仕掛け人活動 一緒に食べるタイム

## ② 居場所づくり

- ・平井医院跡地を利用した居場所づくり
- ・なるべく近く(歩いていけるくらい)で、おしゃべりできる場所
- ・いつでも出入りできるサロン

たんぽぽサロン

## ③ 災害に負けないまちづくり

- ・災害に備える情報発信
- ・共助の体制づくり→地域のつながりづくり

東部防災会との連携強化 災害時要援護者対策事業

無事です！カード または、それに代わる仕組みを考える

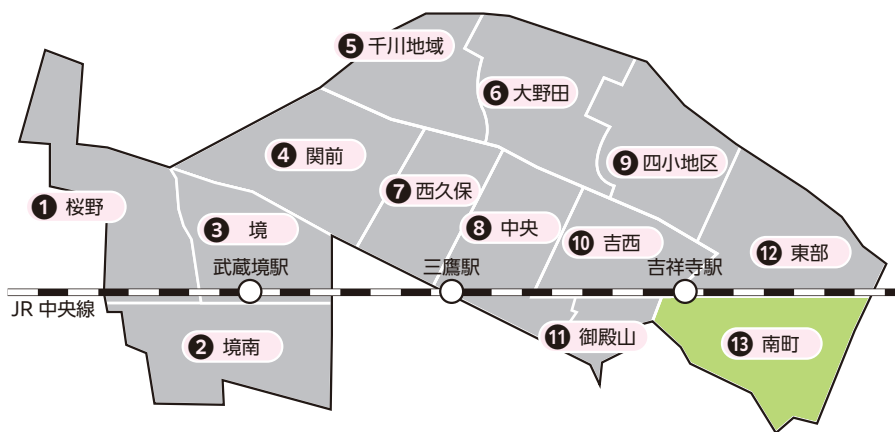
※目標 ①～③ について、ふれあい支援プロジェクトを開催

### 東部地域の現状と課題

### 地域懇談会から

- ・独居高齢者が増えている。地域と繋がらない高齢者も見られる。
  - ・高齢者の生活が不安(ネットが出来ない・雨の日の外出が困難・日常の買い物をできるお店が遠いなど)
  - ・近所づきあいが希薄 マンションに住んでいる人との交流が難しい
  - ・現役世代の地域参加
  - ・居場所がない 子どもから高齢者まで集まる場所が欲しい 中高生の居場所も
- 【市の課題】
- ・高齢者施設が少ない
  - ・市に寄贈された土地が活かされていない
  - ・医療機関が近くにない
  - ・入院できる病院が減っている

# 南町福祉の会 地域福祉活動計画



## 南町地区データ

人口：13,153人  
※令和7年2月1日現在  
世帯数：7,512世帯  
※令和7年1月6日現在

## 南町福祉の会データ

エリア：吉祥寺南町全域  
設立：平成7年5月12日

## 活動紹介

最近大事にしている活動の3つのポイント

- ・誰でも自由に参加できる
- ・とにかく福祉の会(楽しいことを提供していること)を知ってもらう
- ・地域の福祉関係者や施設と連携してつながりの輪を広げる

具体的活動・・・

- ・丁目活動への相互乗り入れ(他の丁目の活動にも参加できる、活動展示方法も変更)
- ・誰でも参加できる工夫を進め、参加者の幅を広げる方向を追求している
- ・イベントでの幟、帽子など識別できるものを活用
- ・駄菓子屋などこどもやその親などへの訴求策の実施

V

身近な地域で6年間に取り組むこと  
(地域社協別地域福祉活動計画)

## スローガン 人と人が「ゆるやかにつながる」住みやすいまち南町

### 目標①

・福祉の会のイベントの充実、新たな憩いの場づくり(つながる仕組み)を通してゆるやかな人と人とのつながりをつくる。

### 目標②

・防災・認知症・独居など個人だけでは超えられない課題への連携の仕組みを構築する

### 目標③

・福祉関係団体および地域の各団体との協力関係を強化して誰もが安全でほっとできる生活環境(住みやすいまち)を確保する。

## (地域懇談会で出た) 地域の現状と課題

・もともとは「ほっとできる街」(おっとりした・ゆとりある)であったが、安全・良好な環境＝住みやすい環境が悪化(犯罪・ルールを守らない、危険性を内在させる施設の設置、従来の商店が減少)していく傾向にある

・環境面、時代背景なども含めると、人と人とのつながりが希薄になっている。しかし、個々人ではつながりを持ちたい方も多し。さらに「独居・孤独死・認知症など」の社会課題も考えると、つながり支え合ううえでの人のつながりの必要性が大きくなっている。

・つながるための場、機会を増やす、拡充する取り組みは進めているが、そのような場の存在を知らない方、忙しくて時間の取れない方も多し。魅力的な活動を実施することとその情報の伝え方、いろいろな場づくりが必要になっている。

・各人の思い、考え、スタンスは相違点が増えており、その意味では付き合いにくく、対応にはいろいろなアプローチも必要になっている。

# 資料集



## 1 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会 委員名簿



	氏名	所属団体等	役職等
1	阿部 春彦	公募委員	
2	市川 順子	吉祥寺南町防災ネットワーク	代表
3	和 秀俊	田園調布学園大学	教授
4	◎ 熊田 博喜	武蔵野大学	教授
5	見城 学	境南地域福祉活動推進協議会	副会長
6	坂井 健司	武蔵野市商店会連合会*	会長
7	○ 酒井 陽子	ボランティアセンター武蔵野運営委員会*	運営委員長
8	川鍋 和代 佐藤 清佳	武蔵野市民生児童委員協議会*	代表会長 (策定委員会：R6.10.31 辞任) 代表会長職務代理 (策定委員会：R6.11.6 選任)
9	鈴木 庸子	多文化枠（事務局推薦）	
10	西田 順子	武蔵野市赤十字奉仕団*	委員長
11	馬場 武寛	武蔵野市市民部市民活動推進課	課長
12	福本 千晴	障害児者枠（事務局推薦）	
13	町田 敏	武蔵野市コミュニティ研究連絡会*	会長
14	宮田 恵	武蔵野市青少年問題協議会* 第一地区委員会	委員長
15	山田 剛	武蔵野市健康福祉部	部長
16	吉田 真也	東京ボランティア・市民活動センター	統括主任

※五十音順 / 敬称略 (◎：委員長 ○：副委員長)

※所属団体、役職は就任時

## 2 策定委員会 開催状況

	日 時	場 所	内 容
第1回	令和6(2024)年 7月 3日(水)	市役所 412 会議室	概要説明
第2回	8月 21日(水)	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	第4次地域福祉活動計画の 振り返り
第3回	9月 11日(水)	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	計画内容の検討 地域懇談会の振り返り
第4回	10月 2日(水)	武蔵野商工会議所 4階市民会議室	計画内容の検討
第5回	11月 6日(水)	武蔵野商工会議所 4階市民会議室	計画内容および体系の検討 中間まとめの検討
第6回	12月 4日(水)	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	中間まとめ完成
第7回	令和7(2025)年 1月 8日(水)	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	特に推し進めたいアクションの検討 計画の冊子および広報について
第8回	2月 12日(水)	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	パブリックコメント等への対応 計画(案)の検討
第9回	3月 5日(水)	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	パブリックコメント等への対応 計画(案)の検討



### 3 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画中間まとめに対する パブリックコメント概要報告

目 的：「第5次武蔵野市民地域福祉活動計画中間まとめ」に対し、市民の意見を幅広く募集し、できる限り計画や施策に反映する

募集期間：令和6（2024）年12月13日（金）～令和7（2025）年1月6日（月）

募集方法：①広報紙『市民社協だよりふれあい』に掲載、②本会ホームページ・SNSによる広報、③市報掲載

意見数：10名、36件

※I～IV（P 4～30）にあたる部分を「中間まとめ」とし、パブリックコメントを募集しました。

たくさんの貴重なご意見をお送りくださり、ありがとうございました。

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
1	全体	—	全体を見たときに表面をなでているだけのように感じます。もう一步踏み込んだプランを考えることが必要ではないでしょうか。できていないことをただやるとしてもできないことは自明です。新しい取組を生み出すことが大事と思います。	前（第4次）計画では主にコロナの影響により達成できなかったことも多いため、再度取組として記載しているものも多くあります。また、本計画では取組ごとに特に推し進めたいアクションを設定し、優先的に進めていくこととしています。
2	全体	—	お節介な活動ばかり挙げている。孤立したくない人には市役所とか、各地の支所に来てもらったら良いと思う。孤立してはいけないのですか。災害対応ならば、別のところで挙げているはず。孤独死や孤立死を悪いことのように捉えていませんか。市民社協がどうのこうの言う問題ではない。この活動に近寄りたくないという感想です。すでに市内各地にコミセンがあるのに、同じようなことをする必要はないです。コミセン活動を強化すればよいのではないのですか。	自ら支援を求める人にいつでも対応できる体制や、つながりを必要としても孤立している人に対しては、行政の支援と地域のつながりを活かした支援の両方が必要と考えています。 コミセンとその他の団体の活動は共通する部分もありますが、地域課題は多様でもあり、連携して取り組んでいくことが重要と考えています。
3	全体	—	地域社協の活動に関わる費用はどこから出ている、監査はどのように行われているのか不明。	共同募金の配分金及び市民社協からの助成金を充てています。団体の中に監事を置いて監査を行い、市民社協に事業報告及び決算報告を行っています。

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
4	全体	—	「実施主体別の課題解決に向けたアクション」で、「活動に参加している人」に対する要望が多く、すでに取り組んでいることもあるが、地域活動への参加者が少ない中で、負担に感じる。	記載事項については、できる形で参加いただくことを期待し、具体的なアクションをまとめています。また、参加者を増やす方策については、P29～30にまとめています。
5	全体	—	市民社協が何をしたいかわかりづらいです。また、地域社協が何をしたいかわかりづらいです。	市民社協の役割や取組については、地域福祉活動計画に基づき、「市民社協発展・強化計画」（令和7（2025）年度策定予定）において、具体的な取組を検討します。地域社協の取組については、P32から掲載の地域社協別地域福祉活動計画をご参照ください。
6	全体	—	地域課題など広い言葉が使われているが、読む人によって受け取り方が変わってくると思います。伝わる言葉を使ったほうがいいと思います。	地域課題（生活課題）は、社会福祉法でも定義される法律上の用語です。本計画においても「主に居住する地域内において、日常生活の中で感じる困りごと」を指しています。
7	全体	—	市の計画と連携しているのはどの部分でしょうか？	市の地域福祉計画でも記載されている取組をP22・26・28・30のアクションに記載しました。
8	全体	—	基本理念は第4次に引き続き「みんなが主役…」はいいのですが、「市民一人ひとりが主体的に…取り組むこと」と社協が市民に仕事を課すのは違うと思います。市民が主体的に取り組たくなる社会を社協が作るなら分かります。これは社協の計画であって市民の計画ではないです。	地域福祉活動計画は、市民が主役となって取り組む地域福祉活動に関する民間の計画です。市内3圏域で地域懇談会を開催するとともに、策定委員会は様々な団体の代表等で構成し、関係機関、市民社協、行政など、地域福祉に携わる多くの方々の意見をまとめ策定しました。本計画と「市民社協発展・強化計画」に基づいて、地域福祉を推進する取組を進めていくことで、市民が主体的に取り組たくなる社会づくりを進めていきたいと考えています。

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
9	全体	—	UD フォントを使ってください。 福祉に関係する計画ならば UD フォントを使用したり、色覚多様性に配慮した配色にするなどユニバーサルデザインへの意識を高く持つべきかと思えます。いきなり全部を完璧にするのは難しいかもしれませんが、何の疑問も持たずに明朝体を使用するのは卒業しませんか？	ユニバーサルデザインに配慮したフォントおよび配色を使用するよう努めます。
10	全体	—	地域住民というワードが出てきますがおそらく住民ではなく市民（住民や仕事等により武蔵野市で暮らす人）のことだと思えます。市民の地理的範囲が広すぎれば単に地域でよいのではないのでしょうか。	住民（地域住民）は市内に居住する方、市民は住民に加え、市内で働く・学ぶ・活動する等の方を指しています。おおよその対象は市民ですが、武蔵野市に住む人を意識したつながり等で住民を使用しています。
11	全体	—	情報発信をはじめ様々なことに平等性を持ち込まない。公平性を基準にする。	本計画書の情報を発信する媒体を増やすアクションは、受け手によく伝わることやわかりやすさを意識した「公平性を大切にしたい」取組として挙げています。
12	基本目標 1	P23 ~ P24	ターゲットによりメディアの使い方・内容を変えるのがいいと思います。全員に伝えようとするとうまく伝わらない。よく伝わることを優先します。複数の伝え方のどれかにひっかかればラッキーくらいに考えてはいかがでしょうか。	対象者に合わせて発信の仕方や内容を変えていく取組がよりわかりやすくなるよう、P22「活動に参加している人」のアクションに追記しました。
13	I 地域福祉活動計画策定までの流れ	P5	個別計画だけでなく、長期計画との関係性を説明する項目があると良いと思います（地域福祉活動計画に関わる部分を具体的に示すなど）。また、計画の期間の図にも長期計画が入っていると良いと思います。	長期計画及び個別計画を含めた本計画の策定イメージを P5 に追加しました。

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
14	【基本理念】	p 7 (P27 ~ P28 も含 む)	<p>「ささえあい」の前段階として、各種学校や子育て支援施設等での体験・実践・共有等の助走づくりや伴走の必要性、場づくりの再検討、方法の見直しを本委員会で議論していただきたい。</p> <p>(例) 保育園・幼稚園等の保護者に向けて(=【出張スタイル】会場やテーブルは当事者のフィールド活用が望ましい。)、子育て時にどのような「地域理解」や「協力」等が必要か?を地域ボランティアに関心のある方々がヒアリング体験→ワークショップへの展開を試みる。など→【最重要/社協の役割】市民向けに機会や場・テーブルづくり(=出向くスタイル→社協の宣伝目的?)の提供と共有など</p>	<p>策定委員会では、様々な世代が地域で自然につながる場づくりについて検討し、P28の「活動に参加している人」や「市民社協」のアクションに記載しています。学校等と地域の連携・協働については、「市民社協発展・強化計画」において検討します。</p>
15	第4次活動計画「基本目標1」	p 7	<p>→人づくりには相互「課題/問題」共有での発見の体験が最重要。</p> <p>→口コミの力をどう活用するか?その口コミ時のツールとしてのSNS活用=(例)社協としてのボランティア活動時のスマホ活用教室の開催。成蹊大ボラセンや成蹊大学Uni.等との共同開催。</p> <p>→市民社協は常に「共同開催」を基本とする?啓発目的やつながりづくりも含む。</p> <p>→担い手の発掘や育成の前に、共有含む体験や相互交流の経験の積み重ねが最重要。</p>	<p>本計画書では、体験や交流の経験を生み出す上で、参加してほしい人に情報が届いていないことが課題として挙がりました。そのため、「取組(1)地域で活動に参加しやすい情報発信を行う」のなかで、参加を促すためにどのように情報を届けるかについて取り組むことを記載しています。なお、ボランティアセンター武蔵野では、近隣の大学の学生と連携し、ZoomやInstagram講習会を開催しており、今後も継続していきます。</p>

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
16	第4次活動計画「基本目標1」	P 8	1つ目の●でふれている「地域活動情報・ボランティア活動情報のわかりやすさ」は大変重要な点で、最低でも「いつ・どこで・何を・どの程度(作業量や所要時間)」が不明なままでは、いくら広報しても地域活動に関わる人は増えないのではないかと思います。	作業量や所要時間については、P22「情報を提供する機会や方法」(市民社協)の中で検討します。
17	第4次活動計画「基本目標1」	P 8	2つ目の●「地域社協が転入者の取組を検討する際に、…」とあるが何を言っているかわからない。なぜ地域社協が「転入者の取組」を「検討」するのか、シチュエーションが伝わってこない。地域社協は何らかの個人情報から地域への転入者をすべて把握しているという事なののでしょうか。	P 8の前計画の基本目標1の2つ目の●「地域社協が転入者の取組を検討する際に、…」の記載箇所に「地域社協がそれぞれのエリア内で一緒に活動する人を探す取組の一つとして検討してきた…」と検討することとなった背景を具体的に加筆しました。
18	第4次活動計画「基本目標1」	P 8	3つ目の●ですが、「自分にとって楽しいかどうか」を優先するのは当たり前のことではないでしょうか。「楽しい」の解釈は多々あると思いますが、単純に作業や活動の雰囲気を楽しかったりというだけでなく、活動の意義が実感できたり、自分が活動に参加する中で意見を伝えたり新しい取組を提案したりするなど“新参者”ものびのび活動できる環境づくりが「楽しい」につながるのではないかと思います。	P30記載の「特に推し進めたいアクションその2」の地域福祉活動の見直しを進める一つとして、現在市民社協では地域社協運営委員向けのアンケートで活動の楽しさや意義等の調査を行っています。そこから得た内容を地域福祉活動を行う団体や市民にフィードバックしてまいります。

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
19	第4次活動計画「基本目標2」	p 8 (P12 ~ P14 も含む)	ささえられる側の地域参加、社会参加、参画を基本にしななければ、地域実態やつながりづくりが見えてこないのでは？視点の転換を。	ボランティアを受ける側がボランティアをする側に回り、活動の担い手となることはこれまでの地域の取組でも実例があり、担い手づくりを考えていく上では大切な視点です。P30「活動に参加している人」のアクションに追記しました。
20	第4次活動計画「基本目標3」	p 8 (P12 ~ P14 も含む)	受け手、担い手の枠を無くす工夫をする(=ニュアンスはおまかせします)ことをあえて書き込んでほしい=これからの地域づくりの基本では？	
21	基本目標2-3「地域で一緒に活動できる仲間を増やす」	P29 ~ P30	ボランティアを受ける側が常に受け続けるのではなく、ボランティアを提供する側にも回れるのであれば、give & take で良いと思います。例えば、子育ての悩みを聞いてもらった方が、いずれは子育ての相談を受ける側になる等。	
22	第5次活動計画の取組全体	P16 ~ P30	本計画書がボランティア実践者の目線で作られ、つながりを必要とする様々な当事者やボランティア未経験の市民社協が提供する地域社会資源活用を必要とする対象者の方々の視点からリスタートしていない点、今回はその転換がテーマでは？実にもったいない。 ②各種学校、子育て支援施設、保育園・幼稚園等の場やテーブルをどう活用するか？ →上記の場は本来地域の居場所や接点になれる可能性があるが、各単体で完結してしまい、地域とつながれていない課題がある。 =市民社協が橋渡しの役割を担えるのでは？	いただいたご意見は次に引き継ぐと共に現場での視点に反映するよう努めます。 学校等と地域の連携・協働については、「市民社協発展・強化計画」において検討します。

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
23	基本目標 1-1 「地域で活動に参加しやすい情報発信を行う」	P21 ~ P22	発信の問題なのではないでしょうか？情報そのものに価値がないから広がらないだけではないでしょうか。そこを改革しなければ発信技術では解決しないと思います。また、SNSはこちらからの発信だけでなく、受信者がいいねやリポストなどで拡散することが大きなメリットです。そのためには、情報の価値（活動の価値）が問われると思います。	情報の内容そのものを知らない、受け取ること自体が現状では難しい方もいるため、情報そのものの価値と共に発信方法を拡大していくことが重要と考えています。
24	基本目標 1-1 「地域で活動に参加しやすい情報発信を行う」	P21 ~ P22	吉祥寺駅、三鷹駅、武蔵境駅の協力により、市から福祉に関する問い合わせ窓口やイベントの情報を常時掲示することで、必要な方に必要な時に目にとまる情報提供になると思います。	市内 3 駅構内での情報発信は有効であると考えられますが、駅貼り広告は非常に高額であるため、P22 「情報を提供する機会や方法」（市民社協）の中で検討します。
25	基本目標 1 「地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！」	P21 ~ P24	情報発信のために 3 駅に某歯科医院に負けない目立つ掲示板を設置しませんか？	

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
26	基本目標 1 - 1 「地域で活動に参加しやすい情報発信を行う」	P21 ~ P22	<p>情報発信の取組について、市民が欲しい情報と発信されている情報のミスマッチがないかについて、アンケートを実施するなど定期的にフォローし、市民が必要としている情報の把握が大切だと思います。</p> <p>イベント情報を中心に不定期に発信するだけでは、市民はなかなか全体感が見えてこないとも思えるので、市や地域社協のホームページや関連 SNS の紹介など含め、敷居の低い、体系的な情報の提供が必要だと思います。</p> <p>一方で、情報の乱立や過多とならないよう、例えば、地域情報の入口となるサイト等を用意し、まずはそこを見てもらい、市民サイドからの情報アクセス動線をシンプルにするのも良いと思います。既存の市の LINE グループに相乗りするのも一案だと思います。インターネット以外の情報アクセスについても、地域情報で知りたいことがあれば、まずここに問い合わせを試みる、などのアナログ面でのワンストップ化の検討と周知を通じて、市や社協の窓口などの認知度を上げるなども必要だと思います。</p> <p>現状や今後の取組を評価するに当たり、定量的な分析も必要だと思います。</p> <p>開設済みの X(旧 Twitter) やその他 SNS のフォロワー数や、各種ホームページのアクセス数の推移や、ふれあいなどの各種媒体の購読数など、情報発信の効果測定を継続的に行うことで、新たな取組の検討も出来ると思います。</p>	<p>現状では市や市民社協をはじめ、各団体等が個々に情報を発信しているため、体系的な情報提供ができるように協議や整理を進めることが望まれます。地域情報のワンストップ化の検討について P22 「市民社協」のアクションに追記しました。</p>

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
27	基本目標 1-1 「地域で活動に参加しやすい情報発信を行う」	P21	プロボノではなく仕事してもらおうのでちゃんとギャラは払いましょう。	福祉活動全体に関わる貴重な問題提起と受け止めました。本計画書記載のプロボノは、東京都の事業である「東京ホームタウンプロジェクト」を活用したものです。プロボノは社会貢献活動として意義のあるものだと考えますが、ボランティアであるのか仕事であるのかの切り分けに関しては、当事者同士での合意が重要と考えています。
28	基本目標 1-1 「地域で活動に参加しやすい情報発信を行う」	P21 ~ P24	「自分ごと」と捉えやすくするには、想像しやすくして、近い将来起こりうることを提示してみたらどうかと思うのですが、災害関連で言うのであれば、大きな地震が起きたり、停電&断水が起きた時を想定して…どこに行けばいいのか、行った先にはどういう設備があって、どう使えば良いのか。 例えば自分の避難場所である小学校や公園で、仮設トイレの設置を実際にやってみるとか、公園のベンチを使って炊き出しをしてみるとか。そんな企画を立ててみてはどうでしょう？	「●地域のことを「自分ごと」と捉えることができるような広報を行う (P22)」をアクションとして掲げています。具体的なお提案は関連組織と共有します。同時に「自分ごと」として捉えやすくするための基本的な考え方として委員全員で共有いたします。
29	基本目標 1 「地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう!」	P21 ~ P24	基本目標の「情報」は受け取る情報でしょうか。今、学校も知の伝承から考える学びに変わっています。考えることで自分ごとになり主体的な活動に繋がります。情報に「学び」の要素を含めてはいかがでしょうか。創造的な活動やワークショップも主体性が上がります。	本計画書の基本目標の「情報」は、受け取るだけでなく、支援を必要とする人に情報を届けることの両方を想定しています。詳しくは P23 をご参照ください。「学び」の要素については、P22 「情報を提供する機会や方法」(市民社協)の中で検討します。

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
30	基本目標 1-1 「地域で活動に参加しやすい情報発信を行う」	P21	「公共・専門機関」に、「転入者を含む市民に地域活動（団体）の情報を提供するしくみを検討する。」と有るが、是非、実現してほしい。 また、町会の無い武蔵野市独自のしくみについて、もっと広報する必要があると感じる。	町会の少ない武蔵野市独自の仕組みとして、地域社協（福祉の会）の活動は重要と考えています。
31	基本目標 1-2 「福祉の情報を受け取りやすくする」	P23 ~ P24	年に一度、敬老の日に市から高齢者に向けてお祝い（お茶とかお菓子とか）が送られてくるのですが（コロナ禍以前は訪問でした）、それに「お困りごとがある人はここへ相談を」みたいな連絡先を、紙1枚同封してもらおうのはどうでしょう？ 相談先がたくさん書かれていると分かりにくいので、「総合案内」みたいに一つの電話番号（&メールアドレス）にして、まずはそこが入り口、それ以降はこちらで判断して次へ繋ぐようにしてみるとか。	敬老祝品の送付はお祝いを目的とした事業として実施されており、他事業のPRなどを極力控えた形で実施されているとのことでしたので、いただいた意見は市の健康福祉部へお伝えします。
32	基本目標 1-2 「福祉の情報を受け取りやすくする」 [市民社協] のアクション5 項目	P24	外国人住民の方に福祉が届くために、という視点から意見を申し上げます。市内の様々な団体のうち、とくに「MIA(武蔵野市国際交流協会)（の日本語を教えてくれるコーディネーターの方）」と「保健センター」（の保健師の方）と、市民社協のスタッフの方は顔の見える関係をもち、連携されるようにしてください。きょう配布されたMIAの機関紙には「MIA 中期活動方針～これからのMIAを考える」という特集があり、「地域とつながり日本語教室のあらたな扉をひらく」とのタイトルで、地域の保健師、保育士とMIAの対談が載っていました。この対談の中に、社協や子どもひろばのスタッフの方も入っていたらよいのにと思いました。	市民社協とMIAはボランティア相談の面での連携は日頃から行っていますが、地域での日常的な連携については今後取り組んでいくべきことと考えられます。 市民社協の役割については、「市民社協発展・強化計画」の策定を通じ、検討いたします。

No	項目	関連するページ	意見要旨	策定委員会の受け止めと返答
33	基本目標 2-1 「困った時に助け合えるしくみをつくる」	P25 ~ P26	ここで社協や活動に参加している人のやることは、場を作ることとなっています。その通りですが、何年もこの活動をしてきてできていないわけですから、何を変えるかを議論すべきではないでしょうか。	既存の活動を維持・継続することの大変さ、より多くの人に参加してもらうための魅力を検討していくことについて、本計画では P30「取組(2-3) 地域で一緒に活動できる仲間を増やす」の特に推し進めたいアクションとして記載しています。
34	基本目標 2-1 「困った時に助け合えるしくみをつくる」	P25 ~ P26	最初に、「生活の困りごとを抱えている人を見つけた時、できる範囲で地域の中で助け合う。」と有るが、まずは、支援機関につなげ、その上で、地域で見守りなど支えていくのではないかと。	必要に応じて、地域から公的支援につなげていくことと、支援機関から地域につなげていくことの両方が重要と考えています（本アクションは表現を一部修正しました）。
35	基本目標 2-2「地域で自然につながる」 [市民社協] のアクション1項目目	P27	外国人住民の視点から福祉活動計画を考えるとという観点での意見です。よい福祉活動計画のためには、当事者の意見が反映されることが大切だと思います。そのためにも、外国人住民の方も活動の中に組み込まれ、人材として育成されることが大切だと思います。少なくとも、いろいろな場面で意見を言いやすいのがよいと思います。武蔵野市は、戦後すぐから外国人住民の方が多く住んできたし、街づくりに参加されていたのではないかと思います。新参の私にはわかりませんが、前からいらっしゃる方はつながりもお持ちなのではないでしょうか。次期の策定委員会には、外国人住民の方が委員に入っただけのことを期待します。	いただいたご意見は次に引き継ぐと共に、現場での視点に反映するよう努めます。
36	基本目標 2-3 「地域で一緒に活動できる仲間を増やす」	P29 ~ P30	役員のなり手がいないという記述を複数見かけますが、最近では役員のいない団体もあって活動されています。団体の形にこだわるのをやめてはいかがでしょうか。ピラミッド型と鍋蓋型。また、ピラミッド型では肩書好きな方が活動を鈍化させるケースもあります。	役員のなり手がいないという課題は全ての地域に共通する課題となっていますが、役員という形にこだわらず、主体的に地域の活動に取り組む人を増やしていくことが大切であると考えています。

## 4 用語説明



用語説明では、本計画書に書かれている専門用語等、わかりにくい単語や固有名詞の解説をしています。用語説明で解説している単語は、目印として各章の文中で始めに出てくる単語の後ろに「\*」をつけています。

### あ

#### アウトリーチ

生活上の課題を抱えながらも自ら援助にアクセスできない個人や家族に対し、家庭や学校等へ訪問したり、当事者が出向きやすい場所で相談会を開催したり、地域のなかで悩みを見つける場や関係を作ったりすることで、支援につながるよう支援者が積極的に働きかける取組を指します。

#### アプリ（アプリケーション）

特定の作業をする目的で設計されたプログラムのことで、コンピュータやスマートフォンにインストールすることで使用することができます。「特定の作業」の例として、SNSサービスを利用するものやスマートフォン決済、地図、カレンダー、ゲーム等のアプリがあります。

#### 居場所

本計画書における居場所は、身近な地域で住民によって運営される、誰でも自由に入りできるつながりの場のことを指します。

#### インフォーマルな資源

家族をはじめ近隣や地域社会、NPOやボランティア等が行う援助活動で、公的なサービス（フォーマルな資源）以外のものを指します。

#### NPO

「Nonprofit Organization」の略称で、非営利の社会貢献活動を目的としてつくられた団体のことです。狭義には、法人格を有する特定非営利活動法人のことを指します。特定非営利活動法人は「特定非営利活動促進法」に基づいて設立されています。

#### SNS

ソーシャルネットワークサービスの略称で、インターネット上で文章や写真、動画等を投稿して、利用者同士がコミュニケーションを行うためのサービスです。

### か

#### 仮想空間

コンピュータやネットワーク上で構築された立体的な空間で、「バーチャルスペース」や「サイバースペース」とも呼ばれます。現実世界のように人と交流したり、買い物やゲーム、イベントに参加したりすることができます。仮想空間の例として、ゲーム内のマップやバーチャルリアリティー（VR）空間等があります。

#### コミュニティ協議会

昭和46年に策定されたコミュニティ構想やコミュニティづくりの自主三原則（自主参加、自主企画、自主運営）に基づき、各地域においてコミュニティセンターの管理運営や地域コミュニティづくりを担う地域住民組織です。

#### コミュニティ研究連絡会

コミュニティセンターを管理運営している16のコミュニティ協議会の連絡組織です。

## さ

**サロン**

サロンには、ホテル等の談話室や、美容院等の接客を主とする業種や店舗のように様々なときに用いられますが、本計画書では福祉におけるサロンとして、仲間づくりや健康づくりなどを目的とした、地域住民が気軽に集まって交流する活動を指します。

**市民**

市内に居住する人、市内で働く人、学ぶ人および活動する人のことです。

**市民社協**

「武蔵野市民社会福祉協議会」の略称です。（用語説明「武蔵野市民社会福祉協議会」参照）

**孤立（社会的孤立）**

家族や地域社会との関係が希薄で、他者との接触がほとんどない状態です。単身世帯の増加、婚姻率の低下、若者の社会的自立の遅れ等さまざまな要因が背景にあります。

**社会福祉法人**

社会福祉事業を行うことを目的に設立された法人です。社会福祉の全分野に共通する基本事項を定めた法律である「社会福祉法」において定義されています。

**住民**

市内に居住する人のことです。

**青少協（青少年問題協議会）**

「地方青少年問題協議会法」に基づき、首長の附属機関として設置される組織（都道府県および市町村によって名称は異なる）

です。さらに、武蔵野市では市立小学校の12学区域ごとに「青少年問題協議会地区委員会」が設置され、青少年の健全育成のためのさまざまな活動に取り組んでいます。

**赤十字奉仕団**

赤十字の人道博愛の精神のもとに、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする市民による団体です。主に、高齢者支援活動や児童の健全育成活動、災害救護・防災活動、赤十字のPR活動等を行っています。武蔵野市では、都内で3番目の地域奉仕団として、昭和24年に「武蔵野市赤十字奉仕団」が結成されました。

## た

**地域社協**

「地域福祉活動推進協議会」の略称です。市内13の地域社協があり、団体名の略称では「～地域社協」のほか、「～福祉の会」としている場合もあります（用語説明「地域福祉活動推進協議会」参照）。

**地域生活課題（＝地域課題、生活課題）**

主に居住する地域内において、日常生活の中で感じる困りごとのことです。

社会福祉法の第4条の3でも、定義されています。

**地域福祉活動**

地域で行われる福祉活動のことです。本計画書では、住民が自分たちの地域のために自発的に行う福祉活動のことを指しています。

**地域福祉コーディネーター**

地域の困りごとの相談や支援の必要な人への見守り体制を築くため、地域のつなぎ役

として、各種団体や専門職、ボランティアと連携して、地域福祉の推進を図る専門職です。武蔵野市では、この機能を市民社協の地域担当職員の機能に含め拡充することで整理しました。

### 地域福祉活動推進協議会（地域社協）

概ね小学校区を活動範囲とする、地域住民に福祉への関心や理解を広げ、隣近所で困っていることがあればお互いに助け合えるような関係づくりをしていくための住民組織です。詳細は、右下の二次元コード\*から市民社協ホームページをご参照ください。



### 丁目活動

「1丁目」「2丁目」等、丁目を範囲とする集まりのことです。一部の地域では、小学校区などの広いエリアで集まることが難しい人やご近所とのつながりづくりをしたい人のために、丁目ごとで活動を展開しています。

### な

#### ニーズ

「求めていること」や「要求」等の意味を持つ言葉です。本計画書では、福祉分野で用いる「利用者やその家族が必要としている、（または解決したい）生活全般の課題のことを指します。

### 二次元コード（=QRコード）

文字や数字等のデータを縦と横に配置した点（ドット）の図形で表示する技術です。スマートフォン等の機械で読み取って、インターネット上の情報に直接アクセスする

ことができます。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

### ねこの手ボランティア

ボランティアセンター武蔵野で取り組んでいる事業です。登録制のボランティアが、誰にでもできるちょっとした支援（短時間、1回程度で終わるような簡易な活動）を行います。

### は

#### 8050問題

ひきこもりの子とその親が高齢化し、50代の中高年のひきこもりの子の生活を、80代の後期高齢者である親が支えるケースが増えている、という社会問題のことです。

### 福祉専門職

福祉に関する専門的知識と技術を用いて、生活上の困難や悩みを抱える人に寄り添い、支援を行う人のことです。福祉に関する専門的知識や技術を有する資格の例として、「介護福祉士」や「社会福祉士」等があります。

### 無事ですカード

他市区安否確認ボードを参考に、一部の武蔵野市の地域社協で作成しました。発災時に自宅前に掲出することで、ご近所同士で安否確認し合うことを目的とし、エリア内に配布しました。

### プロボノ

社会人が仕事のスキルや経験を活かして、地域団体等で社会貢献のために活動するボランティアのことです。弁護士や医療関係

者等専門職のほか、広報やIT、営業に経理等さまざまな職種が活躍しています。

### ポータルサイト

インターネットにアクセスする際に最初に見るウェブサイトのことです。本計画書では特定の地域の情報やコンテンツをまとめて発信している地域型ポータルサイトを指します。

### ボランティアセンター武蔵野運営委員会

武蔵野市民社会福祉協議会のボランティア活動推進事業（例：ボランティア講座、ボランティア体験キャンペーン、広報紙の発行等）はボランティアセンター武蔵野が実施しており、その事業の企画・運営に協力する市民の集まりです。運営委員は全員ボランティアです。

## ま

### 民生児童委員

厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める人々です。地域の子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配事等の相談・支援を行う「児童委員」を兼ねています。民生委員は民生委員法で定義されています。

### 武蔵野市健康福祉総合計画

武蔵野市の「健康・福祉」分野の個別計画である「①地域福祉計画・成年後見制度利用促進基本計画・再犯防止推進計画」、「②高齢者福祉計画・介護保険事業計画」、「③障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画」、「④健康推進計画・食育推進計画・自殺総合対策計画」に共通する横断的な課題

や連携すべき課題を総合的に整理し、武蔵野市の健康福祉行政の目指すべき方向性と総合目標として重点的な取組を定め、その推進を図るための計画です。

### 武蔵野市商店会連合会

市内の全商店会（45商店会 ※令和6（2024）年4月現在）と9大型店からなる連合体です。

### 武蔵野市民社会福祉協議会

市民の一人ひとりが地域社会における主役となり、同じ地域に暮らす人々と協力して地域福祉を充実させることを目的とする社会福祉法人です。“市民が主役の社会福祉協議会”という意味で、全国で初めてその名に“民”の字を入れ、通称を“市民社協”としています。

### 武蔵野市民社会福祉協議会 発展・強化計画

武蔵野市民社会福祉協議会（市民社協）の事業運営（経営）ビジョンや目標を明確にし、その実現に向けて中長期の取組をまとめた計画です。令和2（2020）年7月に「武蔵野市民社会福祉協議会 発展・強化計画」を策定しました。第5次武蔵野市民地域福祉活動計画の策定を受けて、令和7（2025）年度に「第2次武蔵野市民社会福祉協議会 発展・強化計画（仮称）」を策定する予定です。

## や

### やさしい日本語

文法・言葉のレベルや文章の長さに配慮し、わかりやすくした日本語のことです。元々は外国人向けに始まったことですが、子どもや高齢者、障がいのある方等、多くの人にとって“やさしい”コミュニケーションになると考えられ、「防災」「医療」「教育」

「文化」等、さまざまな場で広がっています。やさしい日本語は、東京都でも推進されている取組です。詳しくは東京都生活文化スポーツ局のホームページをご参照ください。

### ヤングケアラー

家族にケアを要する人がいる場合に、家庭内で年齢に合わない過度な責任または役割を負わされ、家事や家族の世話、介護、感情面のサポート等を行っている18歳未満の子どものことを指します。

## わ

### ワンストップ化

複数の用事を1カ所で済ませることを意味する「ワンストップ」の概念の適用した取組です。ワンストップ化の利点として、利用者の利便性向上や手続きの簡略化などがあります。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（2025～2030）

令和7（2025）年4月 発行

編集・発行：社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会

電話：0422-23-0701 FAX：0422-23-1180

Email：shimin@shakyou.or.jp

デザイン・印刷：株式会社アートイディア



## 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 (2025～2030)

令和7（2025）年4月 発行  
編集・発行：社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会

電話：0422-23-0701 FAX：0422-23-1180  
Email：shimin@shakyou.or.jp  
デザイン・印刷：株式会社アートイディア